

有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成24年4月1日

(第214期) 至 平成25年3月31日

東京都中央区日本橋3丁目6番2号

東京製綱株式会社

(E01378)

第214期（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

有価証券報告書

- 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

東京製綱株式会社

目 次

	頁
第214期 有価証券報告書	
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	7
5 【従業員の状況】	9
第2 【事業の状況】	10
1 【業績等の概要】	10
2 【生産、受注及び販売の状況】	12
3 【対処すべき課題】	13
4 【事業等のリスク】	16
5 【経営上の重要な契約等】	18
6 【研究開発活動】	18
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	19
第3 【設備の状況】	22
1 【設備投資等の概要】	22
2 【主要な設備の状況】	22
3 【設備の新設、除却等の計画】	23
第4 【提出会社の状況】	24
1 【株式等の状況】	24
2 【自己株式の取得等の状況】	28
3 【配当政策】	29
4 【株価の推移】	29
5 【役員の状況】	30
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	35
第5 【経理の状況】	42
1 【連結財務諸表等】	43
2 【財務諸表等】	87
第6 【提出会社の株式事務の概要】	115
第7 【提出会社の参考情報】	116
1 【提出会社の親会社等の情報】	116
2 【その他の参考情報】	116
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	117

監査報告書

内部統制報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年6月27日

【事業年度】 第214期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

【会社名】 東京製綱株式会社

【英訳名】 TOKYO ROPE MFG. CO., LTD

【代表者の役職氏名】 取締役社長 蔵 重 新 次

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋3丁目6番2号

【電話番号】 03-6366-7777

【事務連絡者氏名】 経理部長 中 原 良

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋3丁目6番2号

【電話番号】 03-6366-7777

【事務連絡者氏名】 経理部長 中 原 良

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第210期	第211期	第212期	第213期	第214期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
売上高 (百万円)	79,759	72,138	71,887	76,370	65,289
経常利益又は経常損失(△) (百万円)	2,344	1,623	3,054	383	△3,529
当期純利益又は当期純損失(△) (百万円)	△176	425	765	△3,374	△28,827
包括利益 (百万円)	—	—	564	△2,324	△28,012
純資産額 (百万円)	42,125	42,919	42,915	40,173	11,796
総資産額 (百万円)	104,877	103,538	104,937	105,487	82,944
1株当たり純資産額 (円)	271.66	276.00	276.35	256.64	67.06
1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額(△) (円)	△1.19	2.91	5.26	△23.24	△198.52
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	—	2.90	5.26	—	—
自己資本比率 (%)	37.8	39.0	38.2	35.3	11.7
自己資本利益率 (%)	—	1.1	1.9	—	—
株価収益率 (倍)	—	89.0	59.5	—	—
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	3,669	2,154	10,757	△4,332	2,657
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△3,698	△1,929	△5,375	△5,521	△2,094
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	53	△352	△3,433	7,654	2,977
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	1,756	1,645	3,480	1,822	5,463
従業員数 (名)	2,015	2,041	2,184	2,509	1,988
(ほか、平均臨時雇用人員)	(361)	(326)	(376)	(356)	(339)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第210期、第213期及び第214期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額及び株価収益率については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

3 第210期、第213期及び第214期の自己資本利益率については、当期純損失であるため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第210期	第211期	第212期	第213期	第214期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
売上高 (百万円)	55,202	48,020	48,428	48,463	39,647
経常利益又は経常損失(△) (百万円)	2,712	711	1,137	△582	△1,720
当期純利益又は当期純損失(△) (百万円)	456	659	△558	△3,713	△28,860
資本金 (百万円)	15,074	15,074	15,074	15,074	15,074
発行済株式総数 (株)	162,682,420	162,682,420	162,682,420	162,682,420	162,682,420
純資産額 (百万円)	39,231	40,056	39,068	36,116	7,434
総資産額 (百万円)	92,280	91,355	92,261	88,356	75,141
1株当たり純資産額 (円)	268.49	273.69	269.17	248.70	51.20
1株当たり配当額 (円)	2.5	2.5	2.5	2.5	—
(1株当たり 中間配当額)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額(△) (円)	3.07	4.51	△3.83	△25.58	△198.74
潜在株式調整後 1株当たり当期 純利益金額 (円)	3.07	4.50	—	—	—
自己資本比率 (%)	42.5	43.8	42.3	40.9	9.9
自己資本利益率 (%)	1.1	1.6	—	—	—
株価収益率 (倍)	73.6	57.4	—	—	—
配当性向 (%)	81.4	55.4	—	—	—
従業員数 (人)	997	1,028	1,012	988	822
(ほか、平均臨時 雇用人員)	(164)	(182)	(200)	(223)	(210)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第212期、第213期及び第214期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額、株価収益率及び配当性向については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

3 第212期、第213期及び第214期の自己資本利益率については、当期純損失であるため記載しておりません。

2 【沿革】

- 明治20年(1887) 東京製綱会社(資本金7万円 東京府麻布区)創立
本邦初のマニラ麻ロープ製造を開始
- 26年(1893) 商法制定により社名を現在の東京製綱株式会社に改める
- 29年(1896) 東京株式取引所に上場
- 39年(1906) 小倉工場(ワイヤロープ製造)設置
- 大正14年(1925) 川崎工場(ワイヤロープ・麻ロープ製造)設置
- 昭和26年(1951) 研究所設置
- 34年(1959) 東綱商事株式会社(鋼索鋼線等の販売)設立
- 35年(1960) 東新鋼業株式会社(高級線材の圧延)設立
- 39年(1964) 株式会社東綱磐田製作所(極細ワイヤロープ製造)設立
(のち、株式会社東京製綱磐田製作所に改称)
- 39年(1964) 東洋製綱株式会社(ワイヤロープ製造)を合併し、泉佐野工場を設置
- 43年(1968) 東京製綱繊維ロープ株式会社(繊維索網製造)設立
- 45年(1970) 川崎工場を移転拡張し、土浦工場(鋼索鋼線、道路安全施設等製造)を設置
- 45年(1970) 東京製綱スチールコード株式会社(スチールコード製造)設立
- 46年(1971) 大阪ロープ工業株式会社(ワイヤロープ製造)を合併
- 56年(1981) アメリカ ケンタッキー州ダンビル市にATR Wire & Cable Co., Inc. (スチールコード及びビードワイヤ製造)設立
- 60年(1985) 日鐵ロープ工業株式会社(ワイヤロープ製造)を合併
- 平成11年(1999) 株式会社東京製綱磐田製作所を清算
- 12年(2000) 東新鋼業株式会社における生産の停止
- 13年(2001) 東綱商事株式会社を合併
トーコーテクノ株式会社(土木建築工事)を設立
- 14年(2002) 小倉工場におけるワイヤロープの生産を停止
- 15年(2003) ATR Wire & Cable Co., Inc. が米国連邦破産法チャプター11の会社更生手続を申請
泉佐野工場を堺工場に集約
- 16年(2004) 中国江蘇省江陰市に江蘇双友東綱金属製品有限公司(橋梁用ワイヤの収束)設立
当社グループの流通再編に伴い、株式会社東綱ワイヤロープ東日本(鋼索鋼線の販売)を設立
- 17年(2005) 東京製綱海外事業投資株式会社(海外事業への投資)設立
中国江蘇省常州市に東京製綱(常州)有限公司(スチールコード製造)を設立
- 18年(2006) 東京製綱ベトナム有限責任会社(エレベーターロープの製造)設立
- 19年(2007) 東京製綱スチールコード株式会社を合併
- 21年(2009) 株式会社東綱機械製作所を合併
- 22年(2010) 中国江蘇省常州市に東京製綱(常州)機械有限公司(ワイヤソー製造)を設立
東京製綱マレーシア株式有限責任会社(ソーワイヤの製造)設立

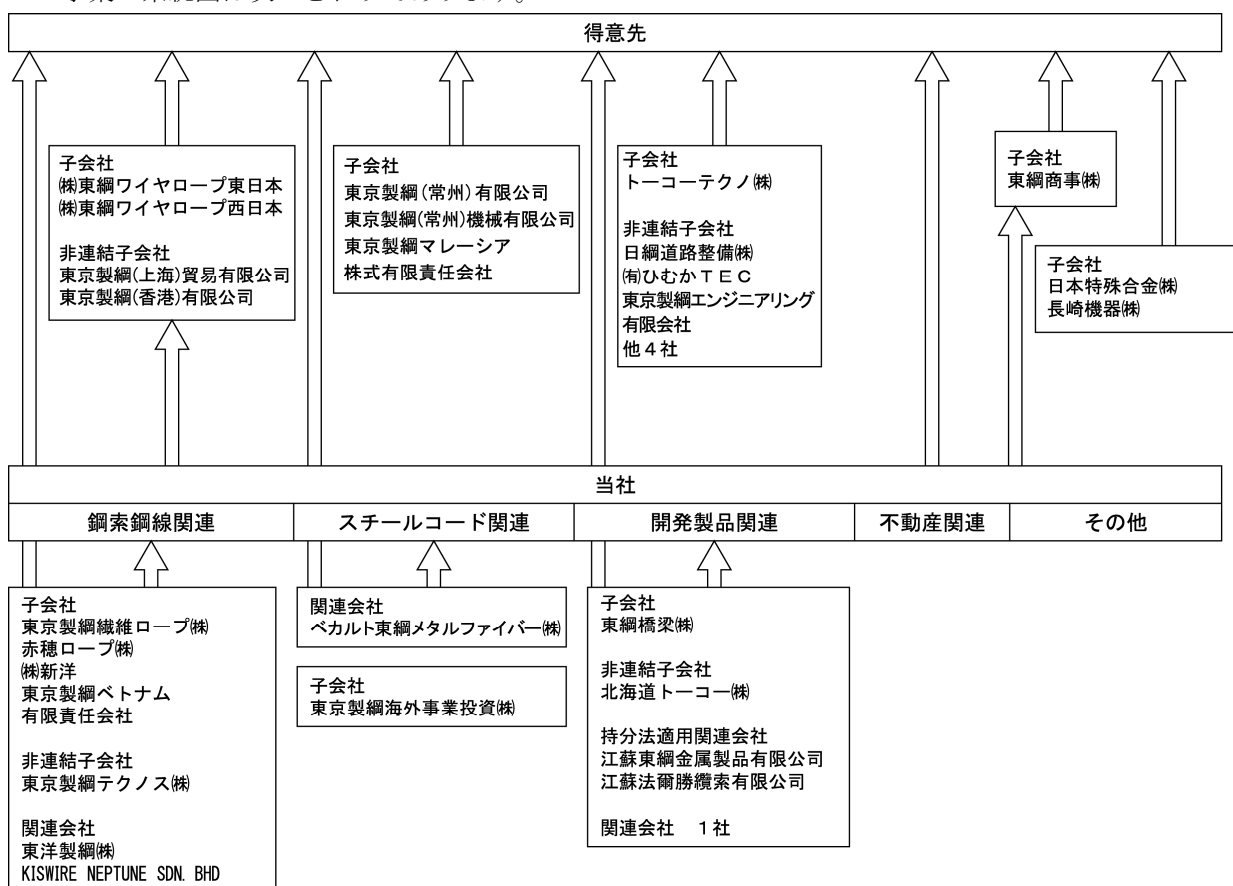
3 【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社26社及び関連会社6社で構成され、鋼索鋼線、スチールコード、開発製品、その他(産業機械、粉末冶金製品、石油製品等)の製造販売及び不動産賃貸を主な事業内容とし、さらに各事業に関連する物流、加工及びその他のサービス活動を展開しております。

当社グループの事業に係わる位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。

- 鋼索鋼線関連 : 当社が製造販売するほか、子会社東京製綱繊維ロープ(株)、赤穂ロープ(株)、関連会社東洋製綱(株)ほか製造販売しており、一部は当社及び子会社(株)東綱ワイヤロープ東日本、(株)東綱ワイヤロープ西日本で仕入れて販売しております。
- スチールコード関連 : 当社が製造販売するほか、子会社東京製綱(常州)有限公司、東京製綱(常州)機械有限公司、東京製綱マレーシア株式有限責任会社、関連会社ベカルト東綱メタルファイバー(株)が製造販売しております。
- 開発製品関連 : 安全施設、鋼構造物等を当社が製造販売するほか、子会社東綱橋梁(株)が製造販売しており、一部は当社で仕入れて販売しております。土木建築工事は子会社トーコーテクノ(株)ほかで行っております。
- 不動産関連 : 当社にて店舗施設等の不動産賃貸を行っております。
- その他 : 産業機械は子会社長崎機器(株)が製造販売しております。粉末冶金製品は子会社日本特殊合金(株)が製造販売しております。石油製品、化学製品等は子会社東綱商事(株)ほかで販売しております。

事業の系統図は次のとおりであります。



主要な連結子会社、非連結子会社、持分法適用関連会社及び関連会社は次のとおりであります。

連結子会社

1 東京製綱繊維ロープ(株)	繊維索・網の製造販売
2 東綱橋梁(株)	橋梁の設計・施工
3 赤穂ロープ(株)	鋼索の製造販売
4 日本特殊合金(株)	粉末冶金製品の製造販売
5 (株)新洋	鋼索・鋼線・フィルタの加工販売
6 東綱商事(株)	石油製品・高圧ガスの販売、保険代理業
7 トーコーテクノ(株)	土木建築工事
8 長崎機器(株)	計量機・包装機の製造販売
9 (株)東綱ワイヤロープ東日本	鋼索・鋼線の販売
10 (株)東綱ワイヤロープ西日本	鋼索・鋼線の販売
11 東京製綱海外事業投資(株)	海外事業への投資
12 東京製綱(常州)有限公司	スチールコードの製造販売
13 東京製綱ベトナム有限責任会社	エレベーターロープの製造販売
14 東京製綱(常州)機械有限公司	ワイヤソーの製造販売
15 東京製綱マレーシア株式有限責任会社	スチールコードの製造販売

非連結子会社

1 東京製綱テクノス(株)	クレーン、索道メンテナンスサービス
2 北海道トーコー(株)	建設資材の販売、土木建築工事
3 日綱道路整備(株)	塗装工事、舗装工事、防水・防蝕工事
4 (有)ひむかT E C	土木建築工事
5 東京製綱(上海)貿易有限公司	鋼索・鋼線の販売
6 東京製綱エンジニアリング有限会社	道路安全施設の設計・販売
7 東京製綱(香港)有限公司	鋼索・鋼線の販売

持分法適用関連会社

1 江蘇東綱金属製品有限公司	橋梁用ワイヤの製造販売
2 江蘇法爾勝纜索有限公司	橋梁用ケーブルの製造販売

関連会社

1 東洋製綱(株)	鋼索の製造販売
2 ベカルト東綱メタルファイバー(株)	金属繊維の製造
3 KISWIRE NEPTUNE SDN. BHD	鋼索の製造販売

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業の 内容	議決権の 所有割合 (%)	役員等の 兼任 (人)		関係内容			
					役員	従業員	資金取引	営業上の 取引	設備の 賃貸借	その他
(連結子会社) 東京製綱繊維 ロープ㈱	愛知県 蒲安市	200	繊維索・網 の製造販売	100.0	1	—	(注) 4	製品の一部 を当社が買 入れています。	当社は工場 土地建物等 を賃貸して おります。	当社は製造 技術の援助 を行って おります。
東綱橋梁㈱	栃木県 下野市	400	橋梁の設 計・施工	100.0	1	—	当社は運転 資金の援助 をしており ます。(注) 4	製品の一部 を当社が買 入れています。	なし	当社は製造 技術の援助 を行って おります。
赤穂ロープ㈱	兵庫県 赤穂市	60	鋼索の製造 販売	100.0	1	1	当社は運転 資金の援助 をしており ます。(注) 4	製品の一部 を当社が買 入れています。	なし	当社は製造 技術の援助 を行って おります。
日本特殊合金㈱	愛知県 蒲安市	31.65	粉末冶金製 品の製造販 売	100.0	1	—	(注) 4	製品の一部 を当社が買 入れています。	当社は工場 建物等を賃 貸して おります。	当社は製造 技術の援助 を行って おります。
㈱新洋	東京都 中央区	45	鋼索・鋼線 フィルタの 加工販売	100.0	—	2	(注) 4	製品の一部 を当社が買 入れています。	なし	なし
東綱商事㈱	東京都 中央区	100	石油製品・ 高圧ガスの 販売、保険 代理業	100.0	—	1	当社は運転 資金の援助 をしており ます。(注) 4	石油類を当 社が納入し て おります。	当社は土地 建物等を賃 貸して おります。	なし
トーコーテクノ㈱	東京都 中央区	40	土木建築工 事	100.0	1	3	当社は設備 資金の援助 をしており ます。(注) 4	なし	当社は事務 所を賃貸し て おります。	なし
長崎機器㈱	長崎県 西彼杵郡 時津町	100	計量機、包 装機の製造 販売	100.0	1	—	(注) 4	なし	当社は事務 所を賃貸し て おります。	なし
㈱東綱ワイヤ ロープ東日本	東京都 千代田区	50	鋼索・鋼線 の販売	80.0	2	1	(注) 4	当社製品の 販売をして おります。	なし	なし
㈱東綱ワイヤ ロープ西日本	大阪府 堺市西区	50	鋼索・鋼線 の販売	100.0	2	1	(注) 4	当社製品の 販売をして おります。	当社は事務 所を賃貸し て おります。	なし
東京製綱海外 事業投資㈱ (注)2	東京都 中央区	4,405	海外事業へ の投資	83.9	2	1	なし	なし	なし	なし
東京製綱(常州)有 限公司 (注)2	中国江蘇省 常州市	8,745	スチールコ ードの製造 販売	(100.0)	1	2	当社は設備 資金の援助 をしており ます。	なし	なし	当社は製造 技術の援助 を行って おります。
東京製綱ベトナム 有限責任会社	ベトナム ビンズン省	US \$ 6,000,000	鋼索の製造 販売	100.0	2	2	なし	製品の一部 を当社が買 入れています。	なし	当社は製造 技術の援助 を行って おります。

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業の 内容	議決権の 所有割合 (%)	役員等の 兼任 (人)		関係内容			
					役員	従業員	資金取引	営業上の 取引	設備の 賃貸借	その他
東京製網(常州)機械有限公司	中国江蘇省 常州市	400	ワイヤソー の製造販売	100.0	1	3	なし	当社製品の 販売をして おります。	なし	当社は製造 技術の援助 を行って おります。
東京製網マレーシア株式有限責任会社 (注)2	マレーシア ジョホール州	2,000	スチールコ ードの製造 販売	100.0	1	2	なし	なし	なし	当社は製造 技術の援助 を行って おります。
(持分法適用関連 会社) 江蘇東網金属製品 有限公司	中国江蘇省 江陰市	US \$ 11,000,000	橋梁用ワイ ヤ等の製造 販売	40.0	1	2	なし	なし	なし	当社は製造 技術の援助 を行って おります。
江蘇法爾勝纜索有 限公司	中国江蘇省 江陰市	US \$ 8,000,000	橋梁用ケー ブル等の製 造販売	40.0	1	2	なし	なし	なし	当社は製造 技術の援助 を行って おります。

(注) 1 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数であります。

2 特定子会社であります。

3 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

4 当社グループは、連結会社間の運転資金の効率的運用を図るため、資金集中管理システムによる資金取引を行っております。また、手形債権の流動化の一環で、当社は受取手形の割引を行っております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成25年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
鋼索鋼線関連	677 (140)
スチールコード関連	872 (128)
開発製品関連	212 (37)
不動産関連	1 (-)
その他	226 (34)
合計	1,988 (339)

- (注) 1 従業員数は、就業人員であります。
 2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の当連結会計年度の平均雇用人員であります。
 3 臨時従業員には、季節工、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。
 4 本社等の「管理部門」の従業員数は各セグメントに配分して記載しております。
 5 前連結会計年度末に比べ従業員数が521名減少しておりますが、主として希望退職を実施したことによるものであります。

(2) 提出会社の状況

平成25年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
822 (210)	42.1	16.0	5,189,064

セグメントの名称	従業員数(名)
鋼索鋼線関連	361 (73)
スチールコード関連	355 (116)
開発商品関連	105 (21)
不動産関連	1 (-)
その他	- (-)
合計	822 (210)

- (注) 1 従業員数は、就業人員数であります。
 2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の当事業年度の平均雇用人員であります。
 3 臨時従業員には、季節工、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。
 4 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 5 本社等の「管理部門」の従業員数は各セグメントに配分して記載しております。
 6 前事業年度末に比べ従業員数が166名減少しておりますが、主として希望退職を実施したことによるものであります。

(3) 労働組合の状況

当社グループのうち、当社、東京製綱繊維ロープ(株)、赤穂ロープ(株)には東京製綱労働組合が組織されており、JAMに属しております。

平成25年3月31日現在の組合員数は724名であり、会社とは正常な労使関係を維持しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度のわが国経済は、昨年末までは、欧州での債務危機問題や新興国の景気減速、超円高の継続で厳しい状況で推移しましたが、年明け以降は、円高の修正、金融政策に対する期待感、株価上昇等の明るい兆しも見えてまいりました。

このような状況のもと、当社グループは「トータル・ケーブル・テクノロジーの追求」を中長期的ビジョンに掲げ、各事業において業容・収益拡大に取り組んでまいりましたが、前年度から悪化したスチールコード部門の収益の回復が見られず、当社グループ全体の業績も厳しいものとなりました。

当連結会計年度における当社グループの売上高は、太陽光関連製品（ソーワイヤ・ワイヤソー）をはじめとするスチールコード関連事業の売上が大幅に減少したことにより、売上高は65,289百万円と前連結会計年度と比し14.5%減収になりました。

利益面でも売上減等により、営業損失は3,444百万円（前連結会計年度は751百万円の利益）、経常損失は3,529百万円（前連結会計年度は383百万円の利益）となりました。当期純損益については、スチールコード事業における構造改革費用24,176百万円等を特別損失に計上し、28,827百万円の損失（前連結会計年度は3,374百万円の損失）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。なお、売上高は外部顧客に対するものであります。

①鋼索鋼線関連

国内向ロープ・ワイヤの販売数量は前連結会計年度に比し減少しましたが、ベトナムにおけるエレベーターロープの販売数量は増加しております。

この結果、売上高は26,131百万円（前連結会計年度比5.0%減）、セグメント利益(営業利益)は1,051百万円（前連結会計年度比7.5%減）となりました。

②スチールコード関連

タイヤコードの販売数量は国内向がほぼ前期並みで推移したものの、輸出と中国においては減少いたしました。

ソーワイヤにおいては数量が減少し、価格も大幅に下落、ワイヤソーにおいては販売台数が激減しました。

この結果、売上高は15,573百万円（前連結会計年度比40.2%減）、セグメント損失(営業損失)は5,235百万円（前連結会計年度は1,289百万円の損失）となりました。

③開発製品関連

道路安全施設の売上は前連結会計年度を下回りましたが、橋梁関連の売上が前連結会計年度を上回っており、売上高は13,522百万円（前連結会計年度比6.7%増）、セグメント利益(営業利益)は153百万円（前連結会計年度は65百万円の損失）となりました。

④不動産関連

前連結会計年度とほぼ横這いで、売上高は1,185百万円（前連結会計年度比1.2%増）、セグメント利益(営業利益)は351百万円（前連結会計年度比30.1%減）となりました。

⑤その他

石油製品、産業機械（自動計量機・包装機）、粉末冶金製品の各部門で売上が伸び悩んでおり、売上高は8,877百万円（前連結会計年度比1.1%減）、セグメント利益(営業利益)は234百万円（前連結会計年度比49.8%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前連結会計年度と比し3,641百万円増加の5,463百万円になっております。

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権や棚卸資産の減少等により2,657百万円の収入（前連結会計年度は4,332百万円の支出）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有形固定資産の取得により2,094百万円の支出（前連結会計年度は5,521百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の増加等により2,977百万円の収入（前連結会計年度は7,654百万円の収入）となりました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
鋼索鋼線関連	26,363	14.3
スチールコード関連	10,161	△59.7
開発製品関連	13,813	7.5
その他	2,893	△1.4
合計	53,232	△16.9

- (注) 1 上記の金額は販売価格によっております。
2 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
鋼索鋼線関連	26,227	△3.6	3,114	3.2
スチールコード関連	10,945	△46.6	1,451	△76.1
開発製品関連	14,251	4.4	3,488	26.4
その他	8,606	△5.2	252	△51.8
合計	60,030	△14.8	8,307	△32.9

- (注) 1 上記の金額は外部顧客に対する受注に基づくものであります。
2 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
鋼索鋼線関連	26,131	△5.0
スチールコード関連	15,573	△40.2
開発製品関連	13,522	6.7
不動産関連	1,185	1.2
その他	8,877	△1.1
合計	65,289	△14.5

- (注) 1 上記の金額は外部顧客に対する売上に基づくものであります。
2 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当社グループでは、スチールコード事業において、太陽光関連をはじめとする市場環境の著しい悪化が進んだこと等により、当連結会計年度において営業損失3,444百万円、経常損失3,529百万円を計上いたしました。また、特別損失に当該事業に関連する減損損失や人件費をはじめとする固定費の抜本的削減を企図した事業構造改革費用等を計上し、当期純損失28,827百万円を計上するに至りました。

国内及び中国のスチールコード生産工場につきましては、減損を実施いたしました。引き続き当社の重要な生産拠点として、更なるコスト削減に取り組むと同時に、新製品の開発・投入にも積極的に取り組んでまいり所存であります。

一方、鋼索鋼線事業、開発製品事業におきましては、国内では平成24年度補正予算や平成25年度予算で公共事業関係費が増額され、復興・防災対策にも重点が置かれており、当社製品が貢献する機会が高まると予想されます。海外でも鋼索事業ではベトナム、開発製品事業ではロシア、カザフスタンでの成長が見込まれ、これらの需要を確実に捕捉してまいります。

次連結会計年度の業績は、スチールコード事業の構造改革で実施した減損損失の計上に伴う償却負担減少や、グループ全体における人件費をはじめとする固定費の抜本的削減等の諸施策の実行により、黒字転換する見通しとなっております。

当社グループでは業績の回復を実現するために、引き続き「トータル・ケーブル・テクノロジーの追求」を中長期的ビジョンに掲げ、全社一体となって顧客ニーズにお応えした良質な製品の提供と同時に、コスト削減を推し進め、収益改善に尽力してまいります。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりです。

(1) 基本方針の内容

当社は、当社グループの企業価値と株主共同利益の維持・持続的発展を実現し、株主の皆様へ還元すべき適正な利潤を獲得するためには、長年の事業活動によって培った柔軟な技術力と多様な事業構造、ブランド力、川上・川下の各取引先との強い連携といった当社グループの企業価値・株主共同利益の源泉の維持が不可欠であり、このためには株主の皆様をはじめ、お客様、お取引先、従業員や地域社会といった当社グループのステークホルダーとの適切な関係を維持しつつ、社会の基盤整備への貢献を通じて当社グループの社会的存在意義を高めていく経営が必要であると考えております。

また、株式会社の支配権の移転を伴う当社株式の買付提案がなされた場合に、その買付が当社グループの企業価値・株主共同利益を高めるものかどうかを株主の皆様が適切に判断するためには、事業間のシナジー効果や当社グループの企業価値の源泉への影響を適正に把握する必要があると考えます。

当社取締役会では、以上の要請を実現することが当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方であると考えており、以上の要請を実現することなく当社株式の大量取得行為や買付提案を行う者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配するものとして不適切であると考えます。

(2) 基本方針実現のための取り組み

平成25年3月期より「事業構造改革による収益力の回復」と「トータル・ケーブル・テクノロジー企業への基礎固め」を柱とする2カ年中期経営計画「TC T-Ⅱ（トータル・ケーブル・テクノロジーの追求 フェーズⅡ）」の取り組みをはじめましたが、想定以上の事業環境の悪化により、平成25年3月期の収益は計画を大幅に下回る赤字となりました。

こうした事態を受け、当社は国内外のスチールコード事業の抜本的構造改革を実施いたしました。これにより、平成26年3月期においては確実に黒字化を図るとともに、今後、当社の事業領域であるインフラ整備や復興・防災、環境分野での需要が期待されることから、当社製品での貢献に努めることなどにより、企業価値を高めてまいります。また、将来の成長エンジンに資する新製品の市場投入など、トータル・ケーブル・テクノロジー企業の基礎固めを引き続き推進することで、長期的かつ継続的な成長を目指します。

(3) 不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定を支配されることを防止する取り組み

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定が基本方針に照らして不適切である者によって支配されることを防止する取り組みとして、平成19年6月28日開催の第208回定時株主総会においてご承認を得て「当社株式の大規模な取得行為への対応策（買収防衛策）」の導入を決議いたしました。その後、平成25年6月27日開催の第214回定時株主総会においてその内容の一部を変更し更新することにつきご承認いただき発効いたしております。（以下、更新後の買収防衛策を「本プラン」といいます。）

本プランは、当社が発行者である株式の大量買付または公開買付を実施する場合の手續を明確化し、株主の皆様が適切な判断を行えるよう必要かつ十分な情報と時間を確保することや買付者との交渉機会を確保することで企業価値・株主共同利益の維持・向上させることを目的としております。

具体的には、当社株式の発行済株式総数の20%以上となる買付または公開買付を行おうとする者（以下、「大量買付者等」といいます。）には、事前に必要な情報を当社取締役会に提出いただき、当社取締役会が一定の検討期間を設けたうえでこれらの情報に対し意見表明や代替案等の提示、必要に応じて大量買付者等との交渉等を行うこととしており、これらの情報については適宜株主の皆様へ情報提供を行うこととしています。

また、大量買付者等と当社取締役会から提出された情報、当社取締役会の代替案等については、当社経営陣から独立した社外者のみで構成される独立委員会に提供され、独立委員会において調査・検討・審議を行い、その結果を取締役に勧告します。

独立委員会では、大量買付者等が本プランにおいて定められた手續に従うことなく当社株式の大量買付等を行う場合または当社の企業価値・株主共同利益が毀損されるおそれがあると認められる場合は、対抗措置の発動（大量買付者が権利行使できない条件付の株主割当による新株予約権の無償割当）を取締役に勧告することとしています。

取締役会では、本必要情報等を検討し、独立委員会の勧告を最大限尊重したうえで、本対抗措置を発動することを決定することがあり、その決定内容について速やかに情報開示を行います。

(4) 本プランの合理性

当社取締役会では以下の理由により、本プランが基本方針に整合し当社の企業価値・株主共同の利益に資するものであり、かつ当社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

①買収防衛策に関する指針の要件を完全に充足していること

本プランは経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」に定める三原則を完全に充足している。

②株主意思を重視するものであること

本プランは平成25年6月開催の第214回定時株主総会において株主の皆様のご承認を得て3年間の有効期限を設定しております。また、有効期限内においても毎年株主総会で選任される取締役を通じて廃止することができる（いわゆるデッドハンド型ではないこと）ことから導入・廃止とも株主の皆様の意思が反映されます。

③独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示

現経営陣からは独立した社外取締役、社外監査役および有識者をメンバーにより構成される独立委員会が、現経営陣による恣意的運用がないかどうか監視するとともに対抗措置の発動等について独立委員会の勧告を行うこと、独立委員会の判断の概要を含めて株主の皆様には情報開示することで本プランが透明性をもって運営される仕組みを構築している。

④合理的な客観的要件の設定

本プランは対抗措置の具体的発動要件を定めているほか、発動に際しては必ず独立委員会の判断と勧告を経て行うこととしており、現経営陣による恣意的な対抗措置の発動を抑制する仕組みを構築している。

4 【事業等のリスク】

当社グループの財政状態および経営成績に影響を及ぼす可能性のあるリスクは、次のとおりであります。なお、以下の記述のうち、将来に関する事項は、当期末(平成25年3月31日)現在における当社グループの判断に基づくものであります。

(1) 景気の動向

世界並びに日本経済の動向により、当社グループの主要需要業界であるタイヤ業界や建設業界などの活動水準が影響を受けた場合には、当社グループの経営成績が影響を受ける可能性があります。

(2) 競合のリスク

当社グループの国内・海外における生産・販売活動における競争環境は厳しさを増しております。当社グループでは、継続的なコスト削減と同時に新製品の開発、新規事業の展開を推進しておりますが、市場価格の低下が当社グループの財政状態および経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 原材料などの供給リスク

当社グループは主材料である線材や亜鉛・心綱等を購入しておりますが、いずれの材料も数社の仕入先に依存しております。仕入先の業績不振、操業停止等に起因する原材料の供給停止や遅延、また世界的な需給逼迫による仕入量の制約、鉄鉱石や原料炭の価格高騰に起因する鋼材価格の上昇が当社グループの財政状態および経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 海外拠点におけるリスク

当社グループは、海外に複数の事業拠点を有しておりますが、当該国における政治・経済的混乱、疫病・テロといった社会的混乱、法的規制などにより、当社グループの事業活動が制約される可能性があります。

(5) 災害・事故等の発生

当社グループの生産拠点において、地震・火災等の大規模な災害や設備事故等が発生した場合、生産活動に支障をきたすことになり、その復旧費用を含め、当社グループの財政状態および経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 株価の下落

当社グループは、取引先との中長期的な経営戦略を共有するために株式を保有しており、その時価が下落した場合、当該株式について、減損処理が必要となる可能性があります。また、従業員の退職給付に関して、株価の下落により年金資産が目減りし、退職給付費用が増加する可能性があります。

(7) 取引先の信用リスク

当社グループは、取引先に対して様々な形で信用供与を行っており、債権の回収が不可能になる等の信用リスクを負っております。これらのリスクを回避するため、当社グループでは取引先の信用状態に応じて、信用限度額の設定や必要な担保・保証の取得等の対応策を講じております。しかし、取引先の信用状態の予期せぬ悪化や経営破綻等により債権が回収不能となった場合には、当社グループの財政状態および経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 固定資産の減損に関するリスク

当社グループは、多額の固定資産を所有しており、経営環境の変化などに伴う収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなった場合には、その回収可能性を反映させるように固定資産の帳簿価額を減額し、その減少額を減損損失とすることになるため、当社グループの財政状態および経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 訴訟などのリスク

当社グループでは、コンプライアンスの徹底に努めておりますが、法令違反等の有無に関わらず、万が一当社グループに対する重要な訴訟等が提起された場合には、当社グループの財政状態および経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 環境リスク

当社グループは、事業活動により発生する廃棄物や有害物質等について、環境関連法令の適用を受け、適切に処理しておりますが、今後、CO₂排出規制をはじめ、環境基準等が強化された場合には、新たな対策費用の発生や操業停止等により、当社グループの財政状態および経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 知的財産権

当社グループは、新製品開発を通じて多くの新技術やノウハウを生み出しており、これらの知的財産を特許出願し、権利保護と経営資源としての活用を図っております。しかし、当社グループの知的財産権への無効請求、第三者からの知的財産権侵害等が当社グループの財政状態および経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 法的規制などに関するリスク

当社グループは、国内外での事業において各国の法的規制を受けており、コンプライアンス、財務報告の適正性確保をはじめ、適切な内部統制システムを構築・運用しておりますが、将来法令違反等が発生する可能性は皆無ではなく、また法規制等の変更により、法令遵守のための費用が発生し、当社グループの財政状態および経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(13) 今後の事業見通し等に関わるリスク

当社グループでは、スチールコード事業において、太陽光関連をはじめとする市場環境の著しい悪化が進んだこと等により、当連結会計年度において営業損失3,444百万円、経常損失3,529百万円を計上しました。

こうした状況下で当社は、スチールコード事業に関連する減損損失や人件費をはじめとする固定費の抜本的削減を企図した事業構造改革費用を特別損失に計上したため、当期純損失28,827百万円を計上するに至りました。

一方で当社は、主力金融機関とも相談のうえで、スチールコード事業の構造改革や人件費をはじめとする固定費の抜本的削減を織り込んだ平成25年度以降の事業見通しを立てており、黒字化の蓋然性は高いものと判断しています。この事業見通しは、コスト削減等を中心とした事業構造改革に基づく保守的な見通しであり、諸施策の実行により安定して収益を計上していく見込みであることから、各金融機関における融資姿勢に変更はありません。

なお、一部シンジゲートローンに関しては財務制限条項に抵触しており、継続企業の前提に重要な疑義が生じさせるような状況が存在しておりますが、参加金融機関から取引条件の見直しは求められていないため、継続企業の前提に関する重要な不確実性はないと判断しております。

このように今後の事業見通しは黒字化の蓋然性が高いものとして判断し、その実現については十分に可能であると考えておりますが、当社が想定しない著しい市場環境の悪化、及び重要な災害等が生じることにより期待される成果の実現に至らない可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

特記すべき事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループは、中長期ビジョン「トータルケーブルテクノロジーの追究(TCT-II)」の下、当社の商品群の多様性(素材、サイズ、用途)と奥行き(ケーブル本体、端末機器、健全性診断技術、製造機械、エンジニアリング)を最大限に活かした事業展開を行うべく、基礎研究、製造技術開発から顧客ニーズを踏まえた高付加価値・高機能製品の開発まで一貫した取り組みを行っております。

当連結会計年度におけるグループ全体の研究開発費は1,059百万円であり、セグメントごとの研究開発活動は次のとおりであります。

(1) 鋼索鋼線関連

当セグメントにおいては、ワイヤロープ・ワイヤに関する製品の高強度化、長寿命化、多機能化に向けての研究開発や製品の健全性を診断する評価技術開発と並行して、スチール以外の素材を用いた新製品の開発を行っております。

また、競合他社に対しコスト競争力で優位に立つことができるよう、画期的な新製造技術の開発にも取り組んでおります。

当連結会計年度における当事業に係る研究開発費の金額は481百万円であります。

(2) スチールコード関連

当セグメントにおいては、顧客の省エネタイヤ開発に対応するスチールコードの高強度化・軽量化に取り組んでおります。

当連結会計年度における当事業に係る研究開発費の金額は161百万円であります。

(3) 開発製品関連

当セグメントにおいては、道路安全施設(落石防護・雪害防止製品、遮音壁等)における差別化新商品・新工法の開発、鋼構造物用ケーブルの設計、炭素繊維複合材ケーブル(CFCC)の実用化に向けての研究開発等を進めております。

CFCCに関しては、その軽量・高強度・高耐食という特性を活かした橋梁の補強材分野や架空送電線用心材分野における用途に対応すべく、改良・開発を進めております。

当連結会計年度における当事業に係る研究開発費の金額は406百万円であります。

(4) その他

当セグメントにおいては、粉末冶金製品事業において、長年培った技術力・開発力を活かし、高度化する顧客ニーズにマッチした超硬工具等の開発に取り組んでおります。

当連結会計年度における当事業に係る研究開発費の金額は10百万円であります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社グループの財政状態および経営成績に影響を及ぼす可能性のあるリスクは、次のとおりであります。なお、以下の記述のうち、将来に関する事項は、当期末(平成25年3月31日)現在における当社グループの判断に基づくものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、当社経営陣は、過去の実績や状況に応じて合理的と考えられる様々な要因に基づき見積り及び判断を行っておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

当社経営陣は、特に以下の重要な会計方針が、当社グループの連結財務諸表の作成において使用される当社の重要な判断と見積りに大きな影響を及ぼすと考えております。

①貸倒引当金

当社グループは、取引先の支払不能時に発生する損失について、過去からの損失発生実績に基づいた見積り額により貸倒引当金を計上しております。過去からの実績と大きな相違があった場合、引当不足が生じる可能性があります。

②投資の減損

当社グループは、長期的な取引関係維持のために、特定の取引先及び金融機関の株式を所有しております。これらの株式には価格変動性の高い公開会社の株式と、株価の決定が困難である非公開会社の株式が含まれます。当社グループは投資価格の下落が一時的でないと判断した場合には、投資の減損を計上しております。将来の市況悪化または投資先の業績不振により、現在の簿価に反映されていない損失または簿価の回収不能が発生した場合、評価損の計上が必要になる可能性があります。

③繰延税金資産

当社グループは、繰延税金資産について、将来の事業計画に基づいて合理的かつ保守的にその回収可能性を検討し判断して計上しております。繰延税金資産の全部または一部について将来回収できないと判断した場合には、繰延税金資産の調整額を費用として計上します。

④退職給付費用

従業員退職給付費用及び債務は、数理計算で設定されている前提条件に基づいて算出されており、これらの前提条件には、将来の給与・賃金水準、退職率、直近の統計数値に基づいて算出される死亡率及び年金資産の長期運用収益率などが含まれます。実際の結果が前提条件と異なる場合、または前提条件が変更された場合、将来期間において認識される費用及び計上される債務に影響を及ぼします。未認識数理計算上の差異の償却は、退職給付費用の一部を構成しており、前提条件の変化や前提条件と実際の結果の差異の影響を費用として認識したものであります。当連結会計年度において、この償却費は805百万円ありました。

(2) 財政状態の分析

①流動資産

当連結会計年度末における流動資産残高は、35,427百万円(前連結会計年度末は40,378百万円)となり、4,951百万円減少しました。受取手形及び売掛金の減少、たな卸資産の評価減が主な要因であります。

②固定資産

当連結会計年度末における固定資産残高は、47,503百万円(前連結会計年度末は65,092百万円)となり、17,589百万円減少しました。固定資産の減損と繰延税金資産の取崩が主な要因であります。

③流動負債

当連結会計年度末における流動負債残高は、49,912百万円(前連結会計年度末は38,525百万円)となり、11,386百万円増加しました。短期借入金の増加が主な要因であります。

④固定負債

当連結会計年度末における固定負債残高は、21,235百万円(前連結会計年度末は26,787百万円)となり、5,552百万円減少しました。長期借入金の減少が主な要因であります。

⑤純資産

当連結会計年度末における純資産の残高は、11,796百万円(前連結会計年度末は40,173百万円)となり、28,377百万円減少しました。当期純損失28,827百万円の計上が主な要因であります。

⑥キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比し3,641百万円増加し、5,463百万円になっております。

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権、棚卸資産の減少等により2,657百万円の収入(前連結会計年度は4,332百万円の支出)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有形固定資産の取得等により、2,094百万円の支出(前連結会計年度は5,521百万円の支出)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の増加等により2,977百万円の収入(前連結会計年度は7,654百万円の収入)となりました。

(3) 経営成績の分析

①売上高の状況

当連結会計年度の売上高は65,289百万円で前連結会計年度に比し11,081百万円(14.5%)減少しました。セグメントごとの状況は以下のとおりであります。

鋼索鋼線関連の売上高は前連結会計年度に比し1,364百万円(5.0%)減少し、26,131百万円となりました。国内向ワイヤの販売数量は前連結会計年度に比し減少しましたが、ベトナムにおけるエレベーターロープの販売数量が増加しております。

スチールコード関連の売上高は前連結会計年度に比し10,473百万円(40.2%)減少し、15,573百万円となりました。タイヤコードの販売数量は国内向がほぼ前連結会計年度並みで推移したものの、輸出と中国においては減少いたしました。

ソーワイヤにおいては、販売数量が減少し、価格も大幅に下落、ワイヤソーにおいては販売台数が激減しております。

開発製品関連の売上高は前連結会計年度に比し846百万円(6.7%)増加し、13,522百万円となりました。道路安全施設の売上は前連結会計年度を下回りましたが、橋梁関連の売上が前連結会計年度を上回っております。

不動産関連の売上高は前連結会計年度に比し14百万円(1.2%)増加し、1,185百万円となりました。

その他の売上高は前連結会計年度に比し103百万円(1.1%)減少し、8,877百万円となりました。石油製品、産業機械(自動計量機・包装機)、粉末冶金製品の各部門で売上が伸び悩んでおります。

②営業利益の状況

営業損失は、3,444百万円となりました(前連結会計年度は751百万円の利益)。これはソーワイヤの価格下落、ワイヤソーの売上減等によるものであります。

③経常利益の状況

経常損失は、3,529百万円となりました(前連結会計年度は383百万円の利益)。

④当期純利益の状況

当期純損失は、28,827百万円となりました(前連結会計年度は3,374百万円の損失)。スチールコード部門における減損損失等の事業構造改革費用24,176百万円をはじめとする25,600百万円を特別損失に計上いたしました。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、当連結会計年度は全体で2,872百万円の設備投資を実施しました。

鋼索鋼線関連では、海外子会社の生産能力増強を中心に1,223百万円の投資を行いました。

スチールコード関連では、1,033百万円の投資を行いました。

開発製品関連では、炭素繊維複合ケーブル(C F C C)生産設備の増強を中心に378百万円の投資を行いました。

その他では、粉末冶金生産設備の増強を中心に212百万円の投資を行いました。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成25年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積 千㎡)	その他	合計	
土浦工場及び研究所 (茨城県かすみがうら市)	鋼索鋼線関連 開発製品関連	鋼索鋼線 製造設備	804	1,801	4,725 (277)	647	7,979	202
堺工場 (大阪府堺市西区)	鋼索鋼線関連 開発製品関連	鋼索鋼線 製造設備	1,075	684	3,395 (53)	209	5,364	126
北上工場 (岩手県北上市)	スチールコード 関連	スチール コード 製造設備	—	—	1,219 (190)	—	1,219	280
北上機械製作所 (岩手県北上市)	スチールコード 関連	スチール コード 製造設備	—	—	33 (32)	—	33	39
賃貸用不動産 (大阪府泉佐野市他)	不動産関連	商業施設 他	5,465	3	7,012 (184)	—	12,481	—
本社・支店 (東京都中央区他)	会社統括業務他	事務所	70	45	— (—)	70	186	175
福利施設 (千葉県柏市他)	—	独身寮他	166	—	416 (5)	0	583	—

(2) 国内子会社

平成25年3月31日現在

会社名 (所在地)	セグメントの名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積 千㎡)	その他	合計	
東京製網繊維ロープ 株 (愛知県蒲郡市)	鋼索鋼線関連	繊維索・網 製造設備	255	143	2,158 (57)	2	2,560	70
東網橋梁株 (栃木県下野市他)	開発製品関連	鋼橋 製作設備	123	90	150 (14)	16	380	65
日本特殊合金株 (愛知県蒲郡市)	その他	粉末冶金製 品製造設備	153	346	1 (1)	20	522	97

(3) 在外子会社

平成25年3月31日現在

会社名 (所在地)	セグメントの名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積 千㎡)	その他	合計	
東京製綱(常州) 有限公司 (中国江蘇省常州市)	スチールコード 関連	スチール コード 製造設備	—	—	— (—)	—	—	452
東京製綱ベトナム 有限責任会社 (ベトナム ビンズン 省)	鋼索鋼線関連	鋼索鋼線 製造設備	336	1,088	— (—)	2	1,427	138

(注) 1 提出会社、国内子会社、在外子会社の帳簿価額には、建設仮勘定の金額を含んでおりません。

2 上記の他、主要な賃借設備の内容は次のとおりであります。

(1) 連結子会社

会社名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	台数	リース 期間	年間 リース料	リース 契約残高
東綱商事(株) (東京都中央区他)	その他	器具備品他	一式	6年間	6百万円	4百万円
(株)新洋 (東京都中央区他)	鋼索鋼線 関連事業	機械装置 他	一式	5～7年間	3百万円	3百万円

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

特記すべき事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

特記すべき事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	400,000,000
計	400,000,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年6月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	162,682,420	162,682,420	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 1,000株で あります。
計	162,682,420	162,682,420	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成18年1月20日 (注)	—	162,682,420	—	15,074	82	5,539

(注) 連結子会社東京製綱スチールコード株式会社株式との株式交換(新株の発行に代えて所有する自己株式を移転)によるものであります。

(6) 【所有者別状況】

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	35	54	259	83	12	12,684	13,127	—
所有株式数(単元)	—	28,316	4,066	34,348	7,741	95	87,214	161,780	902,420
所有株式数の割合(%)	—	17.50	2.51	21.23	4.78	0.05	53.90	100.00	—

(注) 自己株式17,477,279株は「個人その他」に17,477単元、「単元未満株式の状況」に279株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
新日鐵住金株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目6番1号	11,504	7.07
株式会社ハイレックスコーポレーション	兵庫県宝塚市栄町1丁目12番28号	4,000	2.45
東京ロープ共栄会	東京都中央区日本橋3丁目6-2	3,778	2.32
横浜ゴム株式会社	東京都港区新橋5丁目36-11	2,671	1.64
CBHK-KSD-WOORI (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	34-6 YEUIDO-DONG, YEOUNGDEUNGPO-GU, SEOUL, KOREA (東京都品川区東品川2丁目3番14号)	2,591	1.59
朝日生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区大手町2丁目6-1 (東京都中央区晴海1-8-12 晴海アイランドトリトンスクエアオフィスタワー2棟)	2,205	1.35
東京製綱グループ従業員持株会	東京都中央区日本橋3丁目6-2	2,024	1.24
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	1,917	1.17
株式会社日立製作所 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目6-6 (東京都中央区晴海1-8-12 晴海アイランドトリトンスクエアオフィスタワー2棟)	1,900	1.16
住友生命保険相互会社	東京都中央区築地7丁目8-11	1,808	1.11
計	—	34,400	21.14

(注) 上記の他、当社は自己株式17,477千株(10.74%)を所有しております。

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 17,477,000	—	—
	(相互保有株式) 普通株式 50,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 144,253,000	144,253	—
単元未満株式	普通株式 902,420	—	—
発行済株式総数	162,682,420	—	—
総株主の議決権	—	144,253	—

(注) 単元未満株式には、東洋製綱(株)所有の相互保有株式235株及び当社所有の自己株式279株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東京製綱株式会社	東京都中央区日本橋 3丁目6-2	17,477,000	—	17,477,000	10.74
(相互保有株式) 東洋製綱株式会社	大阪府貝塚市浦田町175	50,000	—	50,000	0.03
計	—	17,527,000	—	17,527,000	10.77

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストックオプション制度を採用しております。

当該制度の内容は、以下のとおりであります。

(平成18年6月29日定時株主総会決議)

会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、平成18年6月29日開催の第207回定時株主総会において、当社取締役に対する報酬として新株予約権を年額60,000千円の範囲で付与することを決議しております。

決議年月日	平成18年6月29日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役(注)4
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	400,000株を1年の上限とする。(注)2
新株予約権の行使時の払込金額	(注)3
新株予約権の行使期間	平成18年6月30日から平成25年6月29日までの期間を別途定める。
新株予約権の行使の条件	(注)4
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)4
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注)1 平成18年6月29日定時株主総会決議の新株予約権は提出日現在、付与契約を締結しておりません。

2 発行する新株予約権の総数

400個を1年間の上限とする。なお、新株予約権1個あたりの目的となる株式数は、1,000株とする。ただし、当社が合併、会社分割、株式分割または株式併合等を行うことにより、株式数の変更をすることが適切な場合は、必要と認める調整を行う。

3 各新株予約権の行使に際して払込みをなすべき金額

新株予約権1個あたりの払込金額は、新株予約権を発行する日の属する月の前月の各日（取引が成立していない日を除く。）における東京証券取引所における当社株式普通取引の終値の平均値に1.05を乗じた金額（1円未満の端数は切り上げ）に、付与株式数を乗じた金額とする。

ただし、当該金額が新株予約権発行日の終値（取引が成立しない場合はその前日の終値）を下回る場合は、当該終値とする。

なお、当社が募集株式の発行、合併、会社分割、株式分割または株式併合等を行うことにより、払込金額の変更をすることが適切な場合は、当社は必要と認める調整を行うものとする（調整による1円未満の端数は切り上げる）。

4 付与対象者の人数、新株予約権の行使の条件、新株予約権の譲渡に関する事項は当定時株主総会後の取締役会で決議する。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	23,427	2,855,316
当期間における取得自己株式	3,035	352,569

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(単元未満株式の売渡請求による売渡)	10,643	1,993,630	760	142,309
保有自己株式数	17,477,279	—	17,479,554	—

(注) 1. 当期間における処理自己株式には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡しによる株式は含まれておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡しによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、各期の連結業績に応じた利益の配分を基本として、当期の業績、財務諸表等を総合的に考慮し利益配当を決定することとしております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は取締役会であります。

内部留保資金は、将来にわたる株主利益確保に向けて、新規事業の展開、新製品の開発、国内外の生産販売体制の整備などに活用する予定であります。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、中間配当を見送らせていただき、期末配当につきましても、多額の当期損失を計上したことから無配としております。

なお、当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第210期	第211期	第212期	第213期	第214期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
最高(円)	363	418	322	347	171
最低(円)	104	179	155	140	78

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年10月	11月	12月	平成25年1月	2月	3月
最高(円)	94	107	137	142	133	127
最低(円)	78	83	104	126	102	110

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役会長 代表取締役		田中 重人	昭和18年1月14日生	昭和42年4月 平成10年6月 平成13年4月 平成13年6月 平成14年4月 平成22年6月	富士製鐵㈱入社 新日本製鐵㈱取締役就任 顧問 代表取締役副社長就任 代表取締役社長就任 代表取締役会長就任(現)	(注) 4	302
取締役社長 代表取締役		蔵重 新次	昭和21年7月9日生	昭和47年4月 平成10年6月 平成12年2月 平成14年6月 平成16年4月 平成17年6月 平成19年4月 平成19年6月 平成21年6月 平成22年6月 平成23年6月 平成24年6月	入社 取締役就任 生産技術部長 ATR Wire & Cable Co., Inc. 取締役社長就任 執行役員社長付 スチールコード事業部付兼技術本部付 常務執行役員 東京製網(常州)有限公司董事兼総経理 技術開発本部長 常務取締役就任 新事業推進本部長 TCT推進本部長 専務取締役就任 代表取締役社長就任(現)	(注) 4	129
常務取締役	スチールコード事業部長	萩原 良仁	昭和23年9月23日生	昭和47年4月 平成14年4月 平成14年6月 平成20年4月 平成24年10月 平成24年12月 平成25年4月	入社 エンジニアリング事業部長 取締役就任 常務取締役就任(現) スチールコード事業部長(現) 東京製網(常州)有限公司董事長(現) 東京製網海外事業投資㈱取締役社長(現) 東京製網(常州)機械有限公司董事長(現) 東京製網マレーシア株式有限責任会社社長(現) 東網スチールコード㈱取締役社長(現)	(注) 4	115

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
常務取締役	技術開発本部長兼TCT推進本部副本部長	村田 秀樹	昭和26年10月10日生	昭和49年4月 平成14年6月 平成18年4月 平成19年4月 平成19年7月 平成20年4月 平成22年6月 平成23年6月	入社 取締役就任 鋼索鋼線事業部土浦工場技術基盤開発プロジェクト担当 鋼索鋼線事業部長 東京製網ベトナム有限責任会社取締役会長就任 常務取締役就任(現) 技術開発本部長 技術開発本部長兼TCT推進本部副本部長(現)	(注)4	104
常務取締役	総務部長 人事部・環境安全防災室管掌	佐藤 和規	昭和26年8月10日生	昭和45年10月 平成16年4月 平成18年4月 平成20年4月 平成21年6月 平成23年6月 平成24年6月	入社 管理本部総務部長 コーポレート統括本部総務部長 執行役員就任 取締役就任 総務部長、人事部・環境安全防災室管掌(現) 常務取締役就任(現)	(注)4	61
取締役	技術開発本部副本部長 経営企画部・経理部・IT企画部・購買物流部管掌	中村 裕明	昭和30年2月4日生	昭和54年4月 平成18年7月 平成22年4月 平成23年6月 平成24年6月 平成24年7月 平成25年4月	入社 東京製網ベトナム有限責任会社社長 鋼索鋼線事業部副事業部長兼営業本部統括部長 執行役員就任 鋼線事業部長 取締役就任(現) 鋼線事業部長兼経営企画部長、購買物流部長、経理部・IT企画部管掌 鋼線事業部長兼技術開発本部副本部長兼経営企画部長兼購買物流部長、経理部・IT企画部管掌 技術開発本部副本部長 経営企画部・経理部・IT企画部・購買物流部管掌(現)	(注)4	26

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	TCT推進 本部長兼TCT事業 開発部長兼TCT企画 室長	首藤 洋一	昭和31年9月14日生	昭和54年4月 入社 平成19年4月 東京製網繊維ロープ(株)商品開発部長 平成21年6月 新事業推進本部副本部長 平成22年6月 TCT推進本部副本部長兼CFCCプロジェクト班長 平成23年6月 執行役員就任 TCT推進本部副本部長兼TCT事業開発部長 平成24年6月 取締役就任(現) 平成24年7月 TCT推進本部副本部長兼TCT事業開発部長兼TCT企画室長 平成24年9月 TCT推進本部長兼TCT事業開発部長兼TCT企画室長(現)	(注) 4	21
取締役	鋼索鋼線事業部長兼 技術開発本部副本部長	浅野 正也	昭和35年2月23日生	昭和58年4月 入社 平成21年8月 コーポレート統括本部人事部長兼経営企画室部長 平成23年6月 執行役員就任 鋼索事業部長 平成23年7月 東京製網ベトナム有限責任会社社長(現) 平成24年6月 取締役就任(現) 平成24年7月 鋼索事業部長兼技術開発本部副本部長 平成24年10月 (株)東網ワイヤロープ東日本取締役社長(現) 平成25年4月 鋼索鋼線事業部長兼技術開発本部副本部長(現)	(注) 4	20
取締役		増渕 稔	昭和18年11月3日生	昭和41年4月 日本銀行入行 平成10年7月 同行理事 平成14年7月 日本アイ・ビー・エム(株)特別顧問 平成16年6月 日本証券金融(株)代表取締役社長 平成22年6月 取締役就任(現) 平成24年6月 日本証券金融(株)代表取締役会長(現)	(注) 4	9
常勤 監査役		泥谷 正三	昭和23年5月26日生	昭和47年4月 入社 平成14年4月 執行役員就任 平成17年4月 管理本部特命担当 平成18年4月 コーポレート統括本部長特命事項兼内部監査室長 平成22年6月 監査役就任(現)	(注) 5	54

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役		小田木 毅	昭和17年9月14日生	昭和45年4月 石井法律事務所入所 弁護士(現) 平成14年6月 雪印乳業株式会社監査役 平成16年1月 有限責任中間法人食肉科学技術研究所(現一般社団法人食肉科学研究所)監事(現) 平成19年6月 財団法人東京水産振興会理事(現) 平成20年6月 月島機械株式会社第三者委員会委員長(現) 平成21年10月 雪印メグミルク株式会社監査役(現) 平成23年6月 監査役就任(現)	(注) 5	15
監査役		山上 純一	昭和27年12月16日生	昭和50年4月 ㈱第一勧業銀行入行 平成14年4月 ㈱みずほ銀行執行役員秘書室長 平成16年3月 同行執行役員就任 平成16年4月 同行常務執行役員就任 平成18年3月 同行理事 平成18年10月 ㈱ぎょうせい専務執行役員 平成18年12月 同社取締役副社長就任 平成23年6月 清和綜合建物㈱監査役就任(現) 平成24年6月 監査役就任(現) 名古屋ビルディング㈱取締役社長(現)	(注) 6	4
監査役		辰巳 修二	昭和25年3月7日生	昭和47年4月 入社 平成15年10月 大阪支店長兼泉佐野工場副工場長 平成19年4月 執行役員鋼索鋼線事業部鋼索販売部長 平成22年4月 執行役員鋼索鋼線事業部副事業部長兼営業本部長 平成23年6月 監査役就任(現)	(注) 5	52
計						918

(注) 1 取締役増淵稔は、社外取締役であります。

2 監査役小田木毅、山上純一は、社外監査役であります。

3 当社では、経営の意思決定と業務執行を明確に分離し、取締役会の意思決定の効率化、迅速化を促し、業務執行の監督機能の強化を図るとともに、業務執行機能の強化を図るために執行役員制度を導入しております。

執行役員は11名で、取締役8名のほか、清水訓雄(鋼索鋼線事業部土浦工場長)、帯向敏春(東鋼機械㈱取締役)、田代元司(エンジニアリング事業部長)の3名で構成されております。

4 取締役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

5 監査役泥谷正三、小田木毅、辰巳修二の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 監査役山上純一の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

- 7 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は以下のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
東 聖高	昭和24年9月18日生	昭和48年8月 ㈱第一勸業銀行入行 平成13年6月 同行執行役員人事室長 平成14年4月 ㈱みずほ銀行常務執行役員就任 平成18年4月 清水建設㈱常務執行役員就任 平成21年6月 日本電設工業㈱監査役就任(現) 平成21年6月 ㈱ユウシュウ建物取締役社長就任 平成22年6月 清和総合建物㈱監査役就任(現)	(注)	—

(注) 補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期満了の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

①コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、継続的に企業価値の向上を実現し市場の信任を得ることを全ての活動の基礎と位置付けております。この基本方針を実現するため、コンプライアンスの推進や、刻々と変化する経営環境にスピーディ且つ弾力的に対応出来る経営体制の構築、経営の健全性を維持するための経営の透明性確保等を実践し、コーポレート・ガバナンスを強化するよう努めております。

②会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

当社は執行役員制度を導入しており、経営の意思決定と業務執行を明確に分離して、取締役会の機能を経営上の意思決定機能と取締役に対するチェック機能に重点化しております。一方、業務執行上の重要事項等の決定は、執行役員を構成員とする経営会議において行うこととしており、意思決定及び業務執行の効率化・迅速化、取締役会による取締役の職務の執行に対する監督機能の強化を図っております。

なお、取締役会は提出日現在、社外取締役1名を含む取締役9名、社外監査役2名を含む監査役4名で構成され、毎月1回以上開催されております。また、経営会議は提出日現在、執行役員11名、監査役2名を構成メンバーとして毎月2回以上開催しております。

さらに、当社は、コンプライアンスの強化を基本方針に掲げ、グループ各社共通のコンプライアンスを含む事業上のリスクの検出・対応方法・チェック体制・是正措置等の実行手順を「リスク管理規程」として文書化し、研修等を通じ周知を図っております。

また、取締役・使用人による職務の執行が、法令・定款及び社内規定に違反することなく適切に行われているかどうかをチェックするため、内部監査室を設置し業務監査を実施しております。

特に、環境面・安全面において関係法令に違反した業務執行が行われないよう環境安全防災室を設置し、当社グループの全社的な管理を実施しております。

その他、社内通報者保護規程を制定し、社内において法令・定款及び社内規定違反行為又は反倫理的行為が為されたこと、若しくは為されようとしていることに気づいた場合、速やかに人事部長に通報させ、通報者に対しては不利益な取扱いを行わないことを明文化する等、体制を整備しております。

③内部監査及び監査役監査

内部監査室は専任者2名からなり、当社グループの全業務のリスクと対応方法を文書化した「内部統制チェックシート」を作成し、「内部統制チェックシート」に基づき、子会社等を含む全部門の監査を実施しております。

当社は監査役会設置会社であり、監査役4名のうち2名は異なる経歴に基づく専門知識を有する純粋社外監査役であります。監査役は経営トップに対する独立性を保持しつつ、取締役会への出席を通じて意思決定の適正性についてチェックを行っております。また、常勤の監査役は経営会議等の経営上の重要会議についても出席することとしており、重要事項の決定に際し、監査役によるチェックが行えるよう体制を整備しております。

また、監査役監査が実効的に行われるために、会計監査人である新日本有限責任監査法人と、定期的に情報及び意見の交換を行っており、更に必要に応じて、会計監査人、顧問弁護士等の意見を求め、内部監査室より内部監査の結果の報告を受ける体制を整備しております。

④社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

社外取締役増淵稔は、当社の株式を9千株所持しておりますが、それ以外の人的、資本的又は取引関係その他の利害関係はありません。社外監査役小田木毅は、当社の株式を15千株所持しておりますが、それ以外の人的、資本的又は取引関係その他の利害関係はありません。社外監査役山上純一は、(株)みずほ銀行の出身者であり、同社グループの(株)みずほコーポレート銀行と当社の間には借入取引及び営業取引があります。また、同社グループは当社の株式を274千株所持しております。なお、同氏は当社の株式を4千株所持しておりますが、それ以外の人的、資本的又は取引関係その他の利害関係はありません。

当社は、利害関係のない社外取締役及び社外監査役を選任し、業務執行者から独立した立場での監査監督機能の強化を図っております。

社外取締役増淵稔は、会社経営者としての豊富な経験を有し、かつ金融の専門家として幅広い実績と識見を有しており、経営上の妥当性・合理性の判断を期待して選任しております。また、社外監査役小田木毅は、弁護士としての専門的立場から経営陣の業務執行に対する監督・監査を行うことを期待して選任しております。社外監査役山上純一は、他の法人における監査役としての豊富な経験を有し、かつ金融の専門家として幅広い実績と識見を有しており、当社の監査体制の強化を期待して選任しております。

当社においては社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する特段の基準及び方針は定めておりませんが、経営者としての経験又は専門的な知見に基づく客観的かつ適切な監督又は監査といった機能及び役割が期待され、一般株主と利益相反が生ずる恐れがないことを基本的な考え方として、それぞれ選任しております。

なお、社外取締役または社外監査役による監督または監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携ならびに内部統制部門との関係については、取締役会、監査役会において適宜報告及び意見交換がなされております。

責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び社外監査役は、任務を怠ったことによって当社に損害賠償責任を負う場合は、会社法第427条第1項の最低責任限度額を限度として、その責任を負う契約を締結しております。なお、当責任限定が認められるのは、社外取締役及び社外監査役がその責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限るものとしております。

⑤ 役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック・ オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	207	207	—	—	—	11
監査役 (社外監査役を除く。)	27	27	—	—	—	2
社外役員	24	24	—	—	—	4

ロ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの
該当事項はありません。

ハ 役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社の取締役及び監査役に対する報酬限度額は、平成19年6月28日開催の第208期定時株主総会において取締役の報酬額を300百万円(年額)以内(ただし使用人分給与は含まない。)、監査役の報酬額を65百万円(年額)以内と決議いただいております。

⑥ 株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数	51銘柄
貸借対照表計上額の合計額	6,376百万円

ロ保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、保有区分、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
横浜ゴム株	1,501,746	895	取引先との関係強化を目的
(株)ハイレックスコーポレーション	514,272	785	取引先との関係強化を目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	905,810	373	取引先との関係強化を目的
(株)常陽銀行	963,134	365	取引先との関係強化を目的
(株)日立製作所	534,000	283	取引先との関係強化を目的
新日本製鐵株	1,168,686	265	取引先との関係強化を目的
三菱商事株	133,639	256	取引先との関係強化を目的
東洋ゴム工業株	881,675	203	取引先との関係強化を目的
住友ゴム工業株	136,069	149	取引先との関係強化を目的
(株)三井住友フィナンシャルグループ	50,923	138	取引先との関係強化を目的
旭ダイヤモンド工業株	140,000	135	取引先との関係強化を目的
三井住友トラスト・ホールディングス株	427,526	112	取引先との関係強化を目的
ニチモウ株	515,000	110	取引先との関係強化を目的
住友重機械工業株	208,000	95	取引先との関係強化を目的
K I S W I R E L T D	22,500	69	取引先との関係強化を目的
(株)ユーシン	84,000	58	取引先との関係強化を目的
日本フェルト株	141,000	58	取引先との関係強化を目的
清水建設株	170,600	56	取引先との関係強化を目的
三井物産株	29,345	39	取引先との関係強化を目的
(株)みずほフィナンシャルグループ	274,050	36	取引先との関係強化を目的
岡谷鋼機株	41,000	36	取引先との関係強化を目的
(株)丸運	162,800	34	取引先との関係強化を目的
東京海上ホールディングス株	12,435	28	取引先との関係強化を目的
モロゾフ株	100,000	27	取引先との関係強化を目的
日立建機株	12,947	23	取引先との関係強化を目的
山陽特殊製鋼株	45,000	20	取引先との関係強化を目的
三井金属	51,250	11	取引先との関係強化を目的
MS & ADホールディングス	6,570	11	取引先との関係強化を目的
(株)クラレ	9,000	10	取引先との関係強化を目的
東邦亜鉛株	25,000	9	取引先との関係強化を目的

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
横浜ゴム(株)	1,501,746	1,624	取引先との関係強化を目的
(株)ハイレックスコーポレーション	514,272	953	取引先との関係強化を目的
(株)常陽銀行	963,134	507	取引先との関係強化を目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	905,810	505	取引先との関係強化を目的
東洋ゴム工業(株)	881,675	370	取引先との関係強化を目的
(株)日立製作所	534,000	289	取引先との関係強化を目的
新日鐵住金(株)	1,232,484	289	取引先との関係強化を目的
三菱商事(株)	133,639	232	取引先との関係強化を目的
住友ゴム工業(株)	136,069	218	取引先との関係強化を目的
(株)三井住友フィナンシャルグループ	50,923	192	取引先との関係強化を目的
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	427,526	189	取引先との関係強化を目的
旭ダイヤモンド工業(株)	140,000	128	取引先との関係強化を目的
ニチモウ(株)	515,000	101	取引先との関係強化を目的
住友重機械工業(株)	208,000	79	取引先との関係強化を目的
K I S W I R E L T D	22,500	60	取引先との関係強化を目的
日本フェルト(株)	141,000	59	取引先との関係強化を目的
(株)みずほフィナンシャルグループ	274,050	54	取引先との関係強化を目的
(株)ユーシン	84,000	52	取引先との関係強化を目的
清水建設(株)	170,600	52	取引先との関係強化を目的
岡谷鋼機(株)	41,000	46	取引先との関係強化を目的
(株)丸運	162,800	39	取引先との関係強化を目的
三井物産(株)	29,345	38	取引先との関係強化を目的
東京海上ホールディングス(株)	12,435	32	取引先との関係強化を目的
モロゾフ(株)	100,000	30	取引先との関係強化を目的
日立建機(株)	12,947	26	取引先との関係強化を目的
山陽特殊製鋼(株)	45,000	14	取引先との関係強化を目的
MS & ADホールディングス	6,570	13	取引先との関係強化を目的
(株)クラレ	9,000	12	取引先との関係強化を目的
三井金属	51,250	12	取引先との関係強化を目的
東邦亜鉛(株)	25,000	9	取引先との関係強化を目的

⑦取締役の定数

当社の取締役は、10名以内とする旨定款に定めております。

⑧取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

⑨剰余金の配当等の決定機関

当社は、株主への機動的な利益還元を行うことを目的として、会社法第454条第5項及び第459条第1項第4号の規定により、取締役会の決議によって、配当を行うことができる旨定款に定めております。

⑩自己の株式の取得

当社は、経営環境等の変化に速やかに対応するため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。

⑪取締役および監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役(取締役であった者を含む。)および監査役(監査役であった者を含む。)の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役および監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

⑫株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

⑬会計監査の状況

イ 業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数

公認会計士等の氏名等		所属する監査法人名	継続監査年数
業務執行社員	甘楽 眞明	新日本有限責任 監査法人	—
	村山 孝		—

(注) 継続監査年数は、7年以内のため記載しておりません。

ロ 業務執行社員を除く監査業務従事者

公認会計士 6名 その他 11名

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	39	—	38	—
連結子会社	1	—	1	—
計	40	—	39	—

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

当社連結子会社である東京製綱(常州)有限公司、東京製綱(常州)機械有限公司、東京製綱ベトナム有限責任会社及び東京製綱マレーシア株式有限責任会社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst & Young, China、Ernst & Young, Vietnam及びErnst & Young, Malaysiaに対して、監査証明業務に相当する報酬として、5百万円を支払っております。

当連結会計年度

当社連結子会社である東京製綱(常州)有限公司、東京製綱(常州)機械有限公司、東京製綱ベトナム有限責任会社及び東京製綱マレーシア株式有限責任会社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst & Young, China、Ernst & Young, Vietnam及びErnst & Young, Malaysiaに対して、監査証明業務に相当する報酬として、7百万円を支払っております。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社は監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針を特に定めておりませんが、監査計画等総合的に勘案し、両者で協議の上、報酬金額を決定しております。なお、本決定においては、監査役会の同意を得ております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナーへ参加しております。

1 【連結財務諸表等】
 (1) 【連結財務諸表】
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,857	5,499
受取手形及び売掛金	※8 19,384	※8 15,733
商品及び製品	5,196	4,608
仕掛品	7,443	3,853
原材料及び貯蔵品	4,154	3,705
繰延税金資産	1,043	985
その他	1,335	1,241
貸倒引当金	△36	△199
流動資産合計	40,378	35,427
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	※5 13,669	※5 8,943
機械装置及び運搬具（純額）	※5 13,697	※5 4,754
土地	※5, ※6 21,166	※5, ※6 19,862
リース資産（純額）	1,176	1,136
建設仮勘定	1,936	150
その他（純額）	804	312
有形固定資産合計	※1 52,450	※1 35,159
無形固定資産	※7 609	318
投資その他の資産		
投資有価証券	※4 6,593	※4 8,055
繰延税金資産	2,867	1,543
その他	※4 3,025	※4 4,229
貸倒引当金	△453	△1,802
投資その他の資産合計	12,032	12,025
固定資産合計	65,092	47,503
繰延資産	15	12
資産合計	105,487	82,944

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※8 12,394	※8 13,354
短期借入金	※5, ※9 19,826	※5 29,061
未払費用	2,081	2,998
賞与引当金	891	781
その他	3,330	3,716
流動負債合計	38,525	49,912
固定負債		
長期借入金	11,702	※5 7,142
リース債務	1,617	1,590
繰延税金負債	52	34
再評価に係る繰延税金負債	5,788	5,326
退職給付引当金	4,763	4,285
役員退職慰労引当金	159	184
資産除去債務	519	527
長期前受収益	13	10
その他	※5 2,172	※5 2,133
固定負債合計	26,787	21,235
負債合計	65,313	71,147
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,074	15,074
資本剰余金	8,575	8,574
利益剰余金	6,290	△22,058
自己株式	△3,271	△3,272
株主資本合計	26,668	△1,682
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	482	975
繰延ヘッジ損益	1	—
土地再評価差額金	※6 10,851	※6 10,009
為替換算調整勘定	△733	435
その他の包括利益累計額合計	10,600	11,420
少数株主持分	2,905	2,059
純資産合計	40,173	11,796
負債純資産合計	105,487	82,944

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)
売上高	76,370	65,289
売上原価	※1, ※4 64,022	※1, ※4 57,864
売上総利益	12,348	7,425
販売費及び一般管理費	※2, ※3, ※4 11,597	※2, ※3, ※4 10,869
営業利益又は営業損失(△)	751	△3,444
営業外収益		
受取利息	34	29
受取配当金	127	197
為替差益	—	153
貸倒引当金戻入額	37	4
補助金収入	67	31
その他	287	245
営業外収益合計	553	661
営業外費用		
支払利息	441	535
為替差損	73	—
その他	405	211
営業外費用合計	920	747
経常利益又は経常損失(△)	383	△3,529
特別利益		
投資有価証券売却益	4	530
特別利益合計	4	530
特別損失		
投資有価証券売却損	30	0
投資有価証券評価損	11	2
災害による損失	※5 76	—
補償修理費用	721	—
事業構造改革費用	※6 3,487	※6 24,176
その他	14	1,422
特別損失合計	4,341	25,600
税金等調整前当期純損失(△)	△3,953	△28,599
法人税、住民税及び事業税	615	436
法人税等調整額	△1,291	688
法人税等合計	△675	1,125
少数株主損益調整前当期純損失(△)	△3,277	△29,724
少数株主利益又は少数株主損失(△)	96	△897
当期純損失(△)	△3,374	△28,827

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
少数株主損益調整前当期純損失 (△)	△3,277	△29,724
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	312	492
繰延ヘッジ損益	0	△1
土地再評価差額金	845	—
為替換算調整勘定	△208	1,120
持分法適用会社に対する持分相当額	2	99
その他の包括利益合計	※1 952	※1 1,712
包括利益	△2,324	△28,012
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△2,425	△27,166
少数株主に係る包括利益	100	△846

③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	15,074	15,074
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	15,074	15,074
資本剰余金		
当期首残高	8,574	8,575
当期変動額		
自己株式の処分	1	△0
当期変動額合計	1	△0
当期末残高	8,575	8,574
利益剰余金		
当期首残高	10,095	6,290
当期変動額		
剰余金の配当	△362	△363
当期純損失(△)	△3,374	△28,827
土地再評価差額金の取崩	—	841
連結範囲の変動	△68	—
当期変動額合計	△3,805	△28,349
当期末残高	6,290	△22,058
自己株式		
当期首残高	△3,284	△3,271
当期変動額		
自己株式の取得	△5	△2
自己株式の処分	17	1
当期変動額合計	12	△0
当期末残高	△3,271	△3,272
株主資本合計		
当期首残高	30,459	26,668
当期変動額		
剰余金の配当	△362	△363
当期純損失(△)	△3,374	△28,827
土地再評価差額金の取崩	—	841
自己株式の取得	△5	△2
自己株式の処分	19	1
連結範囲の変動	△68	—
当期変動額合計	△3,791	△28,350
当期末残高	26,668	△1,682

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	170	482
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	312	492
当期変動額合計	312	492
当期末残高	482	975
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	0	1
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	△1
当期変動額合計	0	△1
当期末残高	1	—
土地再評価差額金		
当期首残高	10,005	10,851
当期変動額		
土地再評価差額金の取崩	—	△841
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	845	—
当期変動額合計	845	△841
当期末残高	10,851	10,009
為替換算調整勘定		
当期首残高	△524	△733
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△209	1,169
当期変動額合計	△209	1,169
当期末残高	△733	435
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	9,651	10,600
当期変動額		
土地再評価差額金の取崩	—	△841
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	948	1,661
当期変動額合計	948	819
当期末残高	10,600	11,420
少数株主持分		
当期首残高	2,804	2,905
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	100	△846
当期変動額合計	100	△846
当期末残高	2,905	2,059

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
純資産合計		
当期首残高	42,915	40,173
当期変動額		
剰余金の配当	△362	△363
当期純損失(△)	△3,374	△28,827
土地再評価差額金の取崩	—	—
自己株式の取得	△5	△2
自己株式の処分	19	1
連結範囲の変動	△68	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	1,049	814
当期変動額合計	△2,741	△28,377
当期末残高	40,173	11,796

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純損失 (△)	△3,953	△28,599
減価償却費	3,911	3,500
のれん償却額	35	38
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	26	166
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△125	△110
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	462	△385
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	20	30
受取利息及び受取配当金	△161	△226
支払利息	441	535
持分法による投資損益 (△は益)	88	△29
投資有価証券売却損益 (△は益)	25	△530
投資有価証券評価損益 (△は益)	11	2
災害による損失	76	—
補償修理費用	721	—
事業構造改革費用	3,487	24,176
その他の特別損益 (△は益)	14	1,422
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,534	2,711
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△714	939
その他の資産の増減額 (△は増加)	△157	178
仕入債務の増減額 (△は減少)	△3,828	678
前受金の増減額 (△は減少)	△1,062	△181
未払消費税等の増減額 (△は減少)	198	18
その他の負債の増減額 (△は減少)	607	△214
小計	△2,408	4,121
利息及び配当金の受取額	161	226
利息の支払額	△440	△540
特別退職金の支払額	—	△725
役員退職慰労金の支払額	△32	△15
災害損失の支払額	△337	—
補償修理費用の支払額	△713	—
法人税等の支払額	△560	△409
営業活動によるキャッシュ・フロー	△4,332	2,657

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△15	△1,073
投資有価証券の売却による収入	26	1,258
関係会社出資金の払込による支出	△74	△25
関係会社株式の取得による支出	△1,131	—
貸付けによる支出	△167	△119
貸付金の回収による収入	161	62
有形固定資産の取得による支出	△5,030	△2,753
有形固定資産の売却による収入	851	656
その他	△140	△101
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,521	△2,094
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	8,107	4,237
長期借入れによる収入	4,277	551
長期借入金の返済による支出	△2,617	△886
信託長期預け金の返還による収入	1,029	—
建設協力金の返済による支出	△2,400	—
配当金の支払額	△362	△362
自己株式の売却による収入	19	1
自己株式の取得による支出	△5	△2
リース債務の返済による支出	△394	△561
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,654	2,977
現金及び現金同等物に係る換算差額	△58	102
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,257	3,641
現金及び現金同等物の期首残高	3,480	1,822
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	599	—
現金及び現金同等物の期末残高	※1 1,822	※1 5,463

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 15社

連結子会社の名称

東京製綱繊維ロープ(株)、東綱橋梁(株)、赤穂ロープ(株)、日本特殊合金(株)、(株)新洋、東綱商事(株)、トーコーテクノ(株)、長崎機器(株)、(株)東綱ワイヤロープ東日本、(株)東綱ワイヤロープ西日本、東京製綱海外事業投資(株)、東京製綱(常州)有限公司、東京製綱ベトナム有限責任会社、東京製綱(常州)機械有限公司、東京製綱マレーシア株式有限責任会社

(2) 主要な非連結子会社名

東京製綱テクノス(株)

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社11社の合計の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社数 2社

会社等の名称

江蘇東綱金属製品有限公司、江蘇法爾勝纜索有限公司

江蘇東綱金属製品有限公司及び江蘇法爾勝纜索有限公司の決算日は12月31日であり、連結財務諸表を作成するに当たっては同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の主要な会社等の名称

東京製綱テクノス(株)、東洋製綱(株)

持分法を適用しない理由

非連結子会社11社及び関連会社4社については、連結純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社である東京製綱(常州)有限公司、東京製綱ベトナム有限責任会社、東京製綱(常州)機械有限公司及び東京製綱マレーシア株式有限責任会社の決算日は12月31日であり、連結財務諸表を作成するに当たっては同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。なお、他の連結子会社の決算日は3月31日であります。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

1) 有価証券

その他有価証券

① 時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法により評価しております。(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

② 時価のないもの

移動平均法に基づく原価法により評価しております。

2) たな卸資産

主として総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)により評価しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

1) 有形固定資産

① リース資産以外の有形固定資産

当社は主として定率法によっております。

賃貸資産の一部及び平成10年4月1日以降取得の建物(建物付属設備を除く)は定額法によっております。

連結子会社は主として定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

機械装置及び運搬具 2～15年

② リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

なお、リース取引会計基準の改正適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

2) 無形固定資産

定額法によっております。ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) 繰延資産の処理方法

1) 開業費

5年で均等償却しております。

2) 株式交付費

3年で均等償却しております。

(4) 重要な引当金の計上基準

1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額により計上しております。

3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

会計基準変更時差異については、15年による按分額を費用処理しております。

過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11年)による按分額を費用処理しております。

数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務年数以内の一定の年数(11年)による按分額をそれぞれ発生翌連結会計年度より費用処理することとしております。

4) 役員退職慰労引当金

役員の退任慰労金の支払に備えるため、役員退任慰労引当金規程に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

(5) 連結財務諸表の作成の基礎となった連結会社の財務諸表の作成に当たって採用した重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産、負債、収益及び費用は連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。但し、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理を、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理を採用しております。

2) ヘッジ手段とヘッジ対象

① ヘッジ手段

為替予約、金利スワップ

② ヘッジ対象

外貨建債権債務及び外貨建予定取引、借入金

3) ヘッジ方針

外貨建金銭債務等の為替変動リスク、借入金の金利変動リスクを管理するためデリバティブ取引を導入しており、投機的な取引は行わない方針であります。

4) ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ手段の変動額の累計額とヘッジ対象の変動額の累計額を比較して有効性を判定しております。

ただし、特例処理によっている金利スワップ取引については、有効性の評価を省略しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

金額に重要性のない場合は発生年度で全額償却し、重要性のある場合は、その効果の発現する期間にわたって均等償却を行うこととしております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は手許現金、要求払預金及び取得日から3カ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(9) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜き方式によっております。

(会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税の改正に伴い、当連結会計年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる、当連結会計年度の営業損失、経常損失及び税金等調整前当期純損失に与える影響は軽微であります。

(未適用の会計基準等)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)

「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

本会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものです。

(2) 適用予定日

平成26年3月期の期末より適用予定です。ただし、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首より適用予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中です。

(表示方法の変更)

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「リース債務の返済による支出」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた394百万円は、「リース債務の返済による支出」394百万円として組み替えております。

(追加情報)

連結納税

当社及び一部の連結子会社は、平成26年3月期より連結納税制度を受けることにつき、承認申請を行いました。また、当連結会計年度より「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い(その1)」(実務対応報告第5号)及び「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い(その2)」(実務対応報告第7号)に基づき、連結納税制度の適用を前提とした会計処理を行っております。

財務制限条項

当社の借入金のうち、シンジケート・ローン契約による借入金残高1,625百万円については、以下のとおり財務制限条項が付されております。

①事業年度末日における連結貸借対照表の純資産の部の合計金額を322億円又は直近の事業年度末日における純資産の部の合計金額の75%のいずれか高い方に維持すること。

②各事業年度末日における連結の損益計算書における営業利益を2期連続して損失としないこと。

なお、当連結会計年度末において、上記①に抵触しておりますが、当該事実について取引金融機関へ報告しており、取引条件の見直しは求められておりません。

(連結貸借対照表関係)

※1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	62,640百万円	65,831百万円

2 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
受取手形割引高	223百万円	579百万円

3 偶発債務

(1) 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入等に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
関係会社 江蘇東綱金属製品有限公司の借入金 に対する債務保証	652百万円 (50百万円)	—百万円
関係会社 江蘇法爾勝纜索有限公司の借入金 に対する債務保証	521百万円 (40百万円)	1,353百万円 (90百万円)
計	1,173百万円	1,353百万円

(2) 手形債権流動化に伴う買戻し義務

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
手形債権流動化に伴う買戻し義務	1,594百万円	913百万円

※4 非連結子会社及び関連会社に対する資産

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
投資有価証券(株式)	1,303百万円	1,297百万円
投資その他(出資金)	1,073百万円	1,227百万円

※5 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
(工場財団)		
建物及び構築物	1,664百万円	337百万円
機械装置及び運搬具	1,847百万円	385百万円
土地	6,653百万円	5,448百万円
計	10,166百万円	6,171百万円
(その他)		
建物及び構築物	111百万円	6,683百万円
土地	－百万円	13,449百万円
計	111百万円	20,133百万円

担保付債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
短期借入金	20百万円	19,214百万円
長期借入金	－百万円	10,925百万円
その他(固定負債「その他」)	57百万円	47百万円
計	77百万円	30,186百万円

※6 土地の再評価

土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。

再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額に、合理的な調整を行って算出

再評価を行った年月日 平成13年3月31日及び平成14年3月31日

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価格との差額	△5,297百万円	△3,463百万円

※7 のれん及び負ののれんの表示

のれん及び負ののれんは、相殺表示しております。相殺前の金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
のれん	97百万円	－百万円
負ののれん	1百万円	－百万円
差引	96百万円	－百万円

※8 期末日満期手形の処理

期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理をしております。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理をしております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
受取手形	325百万円	143百万円
支払手形	551百万円	423百万円
受取手形割引高	164百万円	158百万円

※9 貸出コミットメントライン及び当座貸越契約

当社において、取引銀行2行と締結しておりました貸出コミットメントライン及び当座貸越契約につきましては、契約を更新しておりません。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
貸出コミットメント及び当座貸越極度額の総額	4,300百万円	—百万円
借入実行残高	1,218百万円	—百万円
差引	3,081百万円	—百万円

(連結損益計算書関係)

※1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、前連結会計年度の評価損の戻入益と当連結会計年度の評価損を相殺した結果、次のたな卸資産評価損(△は戻入益)が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
売上原価	21百万円	74百万円

※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
役員報酬	526百万円	471百万円
従業員給料賞与及び諸手当	2,840百万円	2,831百万円
荷造・運搬費	2,437百万円	2,218百万円
減価償却費	299百万円	369百万円
貸倒引当金繰入額	154百万円	196百万円
賞与引当金繰入額	295百万円	276百万円
退職給付引当金繰入額	385百万円	352百万円
役員退職慰労引当金繰入額	33百万円	28百万円

※3 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
一般管理費	1,095百万円	1,059百万円

※4 引当金繰入額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
貸倒引当金	154百万円	196百万円
賞与引当金	899百万円	781百万円
退職給付引当金	1,419百万円	1,303百万円
役員退職慰労引当金	33百万円	28百万円

※5 災害による損失

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
固定資産、たな卸資産の滅失等	△24百万円	－百万円
設備の修繕、原状回復費用	45百万円	－百万円
操業停止期間中の固定費、現地支援費等	55百万円	－百万円
計	76百万円	－百万円

※6 事業構造改革費用

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
減損損失 (注)	2,106百万円	15,246百万円
固定資産除却損	755百万円	一百万円
たな卸資産処分損及び評価損	625百万円	3,711百万円
操業一時停止に伴う損失	一百万円	4,112百万円
早期退職者費用	一百万円	857百万円
その他	一百万円	249百万円
計	3,487百万円	24,176百万円

(注)減損損失

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

用途	場所	種類
事業用資産 (スチールコード関連事業)	北上工場 岩手県北上市他	建物及び構築物 機械装置

当社グループは、管理会計上で収支を把握している事業グループを単位としてグルーピングを行い、その他に賃貸用資産及び遊休地については個別の資産グループとしております。

太陽光関連事業の環境悪化を受けて、当連結会計年度において、スチールコード関連事業の北上工場の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額(2,106百万円)を減損損失として特別損失に計上しております。

その内訳は、建物及び構築物684百万円、機械装置1,421百万円であります。

なお、回収可能価額は将来キャッシュ・フローに基づく使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを3.6%で割り引いて算定しております。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

用途	会社名	場所	種類
事業用資産 (スチールコード関連事業)	東京製綱(株)	北上工場 岩手県北上市他	建物及び構築物、 機械装置及び運搬具、 土地、その他
		北上機械製作所 岩手県北上市	建物及び構築物 機械装置及び運搬具、 その他
	東京製綱(常州) 有限公司	中国江蘇省 常州市	建物及び構築物 機械装置及び運搬具、 その他
	東京製綱(常州) 機械有限公司	中国江蘇省 常州市	建物及び構築物 機械装置及び運搬具、 その他

当社グループは、管理会計上で収支を把握している事業グループを単位としてグルーピングを行い、その他に賃貸用資産及び遊休地については個別の資産グループとしております。

太陽光関連事業の環境悪化を受けて、当連結会計年度において、スチールコード関連事業の東京製綱(株)の北上工場、北上機械製作所及び連結子会社の東京製綱(常州)有限公司、東京製綱(常州)機械有限公司の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額(15,246百万円)を減損損失として特別損失に計上しております。

その内訳は、建物及び構築物3,986百万円、機械装置及び運搬具9,334百万円、土地1,236百万円、その他689百万円であります。

なお、回収可能価額は将来キャッシュ・フローに基づく使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを5.9%で割り引いて算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	414百万円	1,169百万円
組替調整額	6百万円	△530百万円
税効果調整前	420百万円	639百万円
税効果額	108百万円	146百万円
その他有価証券評価差額金	312百万円	492百万円
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	0百万円	△1百万円
組替調整額	－百万円	－百万円
税効果調整前	0百万円	△1百万円
税効果額	0百万円	△0百万円
繰延ヘッジ損益	0百万円	△1百万円
土地再評価差額金		
当期発生額	－百万円	－百万円
組替調整額	－百万円	－百万円
税効果調整前	－百万円	－百万円
税効果額	△845百万円	－百万円
土地再評価差額金	845百万円	－百万円
為替換算調整勘定		
当期発生額	△208百万円	1,120百万円
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	2百万円	99百万円
その他の包括利益合計	952百万円	1,712百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	162,682,420	—	—	162,682,420

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	17,536,571	23,076	95,152	17,464,495

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 23,076株

減少数の主な内訳は、次の通りであります。

ストック・オプションの行使による減少 85,000株

単元未満株式の売渡しによる減少 10,152株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年5月11日 取締役会	普通株式	362	2.5	平成23年3月31日	平成23年6月9日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年5月11日 取締役会	普通株式	利益剰余金	363	2.5	平成24年3月31日	平成24年6月8日

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	162,682,420	—	—	162,682,420

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	17,464,495	23,427	10,643	17,477,279

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 23,427株

減少数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の売渡しによる減少 10,643株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年5月11日 取締役会	普通株式	363	2.5	平成24年3月31日	平成24年6月8日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
現金及び預金勘定	1,857百万円	5,499百万円
預金期間が3ヶ月を超える定期預金	△35百万円	△35百万円
現金及び現金同等物	1,822百万円	5,463百万円

2 ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額	496百万円	72百万円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

1) 有形固定資産

主として、鋼索鋼線関連及びスチールコード関連における生産設備(機械及び装置)であります。

② リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2 リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前連結会計年度(平成24年3月31日)

	機械装置及び運搬具	工具器具備品他	合計
取得価額相当額	30百万円	110百万円	140百万円
減価償却累計額相当額	22百万円	88百万円	111百万円
期末残高相当額	7百万円	21百万円	29百万円

なお、取得価額相当額は未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

	機械装置及び運搬具	工具器具備品他	合計
取得価額相当額	23百万円	38百万円	62百万円
減価償却累計額相当額	19百万円	34百万円	53百万円
期末残高相当額	3百万円	4百万円	8百万円

なお、取得価額相当額は未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

② 未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1年内	21百万円	8百万円
1年超	8百万円	1百万円
合計	29百万円	8百万円

なお、未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

③ 支払リース料及び減価償却費相当額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
支払リース料	33百万円	21百万円
減価償却費相当額	33百万円	21百万円

④ 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用は短期的な預金等を中心に行い、資金調達については、銀行借入及び社債発行、受取手形等の債権流動化による方針であります。デリバティブ取引は、借入金の金利変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を四半期ごとに把握する体制としています。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、毎月時価の残高管理を行っております。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、このうち長期のものの一部については、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引(金利スワップ)をヘッジ手段として利用しております。ヘッジの有効性の評価方法については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、その判定を持って有効性の評価を省略しております。

また、営業債務や借入金は流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、定期的に資金繰計画表を作成するなどの方法により管理しております。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（注2）を参照ください。）。

前連結会計年度（平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額(*)	時価 (*)	差額
(1) 現金及び預金	1,857	1,857	—
(2) 受取手形及び売掛金	19,384	19,384	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	5,152	5,152	—
資産計	26,394	26,394	—
(4) 支払手形及び買掛金	(12,394)	(12,394)	—
(5) 短期借入金	(19,826)	(19,826)	—
(6) 長期借入金	(11,702)	(11,708)	△6
負債計	(43,924)	(43,930)	△6

(*) 負債に計上されているものについては、() で示しています。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額(*)	時価 (*)	差額
(1) 現金及び預金	5,499	5,499	—
(2) 受取手形及び売掛金	15,733	15,733	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	6,624	6,624	—
資産計	27,856	27,856	—
(4) 支払手形及び買掛金	(13,354)	(13,354)	—
(5) 短期借入金	(29,061)	(29,061)	—
(6) 長期借入金	(7,142)	(7,158)	△15
負債計	(49,558)	(49,574)	△15

(*) 負債に計上されているものについては、() で示しています。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、当該帳簿価格によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負 債

(4) 支払手形及び買掛金、並びに(5) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、当該帳簿価格によっております。

(6) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成24年3月31日	平成25年3月31日
非上場株式	1,440	1,431

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成24年3月31日）

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
(1) 現金及び預金	1,857	—	—	—
(2) 受取手形及び売掛金	19,384	—	—	—
合計	21,242	—	—	—

当連結会計年度（平成25年3月31日）

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
(1) 現金及び預金	5,499	—	—	—
(2) 受取手形及び売掛金	15,733	—	—	—
合計	21,232	—	—	—

(注4) 借入金の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
(5) 短期借入金	18,979	—	—	—	—	—
(6) 長期借入金	847	5,200	5,877	500	125	—
合計	19,826	5,200	5,877	500	125	—

当連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
(5) 短期借入金	23,861	—	—	—	—	—
(6) 長期借入金	5,200	5,965	835	341	—	—
合計	29,061	5,965	835	341	—	—

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成24年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え るもの	株式	4,152	3,258	893
	小計	4,152	3,258	893
連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え ないもの	株式	999	1,303	△304
	小計	999	1,303	△304
合計		5,152	4,562	589

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。なお、当連結会計年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損6百万円を計上しております。

期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、当社グループにおける規定に従い、該当した銘柄を減損処理しております。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え るもの	株式	5,555	4,020	1,535
	小計	5,555	4,020	1,535
連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え ないもの	株式	1,068	1,374	△306
	小計	1,068	1,374	△306
合計		6,624	5,394	1,229

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。なお、当連結会計年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損2百万円を計上しております。

期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、当社グループにおける規定に従い、該当した銘柄を減損処理しております。

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	26	4	30

当連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	1,258	530	0

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度（平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度（平成24年3月31日）

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	3,527	2,500	△16

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	2,744	—	△12

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。

当社は昭和48年8月より従来の退職金制度に上積して、連合設立厚生年金基金制度を採用していましたが、厚生年金基金の代行部分について、平成14年10月18日に厚生労働大臣から将来分支給義務免除の認可を受け、平成16年1月1日に過去分返上の認可を受けたため、平成16年1月1日より厚生年金基金制度から確定給付型年金制度へ移行しております。また、平成25年3月31日現在の連結子会社15社のうち、5社が確定給付企業年金制度を採用しております。

なお、従業員の退職等に際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

2 退職給付債務に関する事項

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
(1) 退職給付債務	△16,059	△13,980
(2) 年金資産	7,621	6,558
(3) 未積立退職給付債務 ((1) + (2))	△8,437	△7,421
(4) 会計基準変更時差異の未処理額	808	539
(5) 未認識数理計算上の差異	3,822	3,335
(6) 未認識過去勤務債務(債務の減額)(注)	△766	△597
(7) 連結貸借対照表計上額純額((3) + (4) + (5) + (6))	△4,572	△4,145
(8) 前払年金費用	190	140
(9) 退職給付引当金 ((7) - (8))	△4,763	△4,285

(注) 一部の子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
(1) 勤務費用	457	454
(2) 利息費用	252	247
(3) 期待運用収益	△313	△304
(4) 会計基準変更時差異処理額	269	269
(5) 数理計算上の差異の費用処理額	922	805
(6) 過去勤務債務の費用処理額	△168	△168
(7) 退職給付費用	1,419	1,303

(注) 1 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、①勤務費用に計上しております。

2 当連結会計年度において、上期退職給付費用以外に早期退職者費用(857百万円)を連結損益計算書の特別損失「事業構造改革費用」に含めて計上しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1.6%	1.6%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
4.0%	4.0%

(4) 過去勤務債務の額の処理年数

11年(発生時の従業員の前平均残存勤務以内の一定の年数による接分額を費用処理しております。)

(5) 数理計算上の差異の処理年数

11年(発生時の従業員の前平均残存勤務以内の一定の年数による接分額を翌連結会計年度から費用処理することとしております。)

(6) 会計基準変更時差異の処理年数

15年

(ストック・オプション等関係)

1 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内訳

	平成17年ストック・オプション
決議年月日	平成17年6月29日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役(8名)、当社子会社取締役(7名)、当社監査役(4名)、 当社従業員(5名)
株式の種類及び付与数	普通株式 745,000株
付与日	平成17年6月30日
権利確定条件	権利確定条件の定めはありません。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成19年6月30日～平成24年6月29日

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(平成25年3月31日)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

①ストック・オプションの数

	平成17年ストック・オプション
決議年月日	平成17年6月29日
権利確定前	
期首(株)	—
付与(株)	—
失効(株)	—
権利確定(株)	—
未確定残(株)	—
権利確定後	
期首(株)	384,000
権利確定(株)	—
権利行使(株)	—
失効(株)	384,000
未行使残(株)	—

②単価情報

	平成17年ストック・オプション
決議年月日	平成17年6月29日
権利行使価格	210円
行使時平均株価	—
付与日における公正な評価単価	—

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
(繰延税金資産)		
①流動資産		
賞与引当金	342百万円	300百万円
事業構造改革費用	420百万円	529百万円
その他	287百万円	167百万円
小計	1,051百万円	997百万円
評価性引当額	△8百万円	△11百万円
計	1,043百万円	985百万円
②固定資産		
退職給付引当金	1,688百万円	1,091百万円
土地等に係る未実現利益	141百万円	141百万円
投資有価証券評価損	316百万円	318百万円
繰越欠損金	855百万円	1,823百万円
事業構造改革費用	863百万円	3,298百万円
その他	499百万円	735百万円
繰延税金負債(固定)との相殺	△167百万円	△325百万円
小計	4,196百万円	7,082百万円
評価性引当額	△1,329百万円	△5,539百万円
計	2,867百万円	1,543百万円
繰延税金資産合計	3,910百万円	2,529百万円
(繰延税金負債)		
固定負債		
土地圧縮積立金	△79百万円	△79百万円
その他有価証券評価差額	△110百万円	△257百万円
その他	△30百万円	△23百万円
繰延税金資産(固定)との相殺	167百万円	325百万円
繰延税金負債合計	△52百万円	△34百万円
差引 繰延税金資産純額	3,857百万円	2,494百万円
再評価に係る繰延税金負債	△5,788百万円	△5,326百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

税金等調整前当期純損失のため記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

当該事項は、重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の子会社では、大阪府及びその他の地域において、賃貸用の商業施設（土地を含む）他を有しております。

前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は526百万円（賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上）であります。

当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は356百万円（賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上）であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

		前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	13,607	13,237
	期中増減額	△369	△410
	期末残高	13,237	12,827
期末時価		10,617	12,059

- (注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
- 2 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な減少は建物等の減価償却費369百万円であります。
当連結会計年度の主な増加は、不動産取得25百万円であり、主な減少は、建物等の減価償却費377百万円あります。
- 3 賃貸等不動産の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による評価額、重要性が乏しい物件は固定資産税評価額に基づいております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に製品・サービス別の事業部を置き、各事業部は取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社は事業部を基礎とした製品・サービス別セグメントから構成されており、「鋼索鋼線関連」、「スチールコード関連」、「開発製品関連」及び「不動産関連」の4つを報告セグメントとしております。

事業区分	主要製品
鋼索鋼線関連	ワイヤロープ、各種ワイヤ製品、繊維ロープ、網
スチールコード関連	タイヤ用スチールコード、ソーワイヤ、ワイヤソー、金属繊維
開発製品関連	道路安全施設、長大橋用ケーブル、橋梁の設計・施工
不動産関連	不動産賃貸

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益は及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務 諸表 計上額
	鋼索鋼線 関連	スチール コード 関連	開発製品 関連	不動産 関連	計				
売上高									
外部顧客への売上高	27,495	26,047	12,675	1,171	67,390	8,980	76,370	—	76,370
セグメント間の内部 売上高又は振替高	147	—	135	—	283	1,245	1,528	△1,528	—
計	27,643	26,047	12,811	1,171	67,673	10,226	77,899	△1,528	76,370
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	1,136	△1,289	△65	503	284	466	751	—	751
セグメント資産	36,075	40,834	11,614	10,449	98,973	4,929	103,902	1,585	105,487
その他の項目									
減価償却費	1,069	2,148	190	336	3,745	166	3,911	—	3,911
持分法適用会社への 投資額	—	—	959	—	959	—	959	—	959
有形固定資産及び 無形固定資産の 増加額	615	4,567	584	—	5,767	190	5,958	—	5,958

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業機械事業、粉末冶金事業及び石油事業を含んでおります。

2 調整額は以下のとおりであります。

セグメント資産の調整額1,585百万円には、各報告セグメントに配分していない全社資産1,880百万円が含まれております。全社資産の金額は、当社での余資運用資金(現金預金)、長期投資資金(投資有価証券)等であり
ます。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務 諸表 計上額
	鋼索鋼線 関連	スチール コード 関連	開発製品 関連	不動産 関連	計				
売上高									
外部顧客への売上高	26,131	15,573	13,522	1,185	56,411	8,877	65,289	—	65,289
セグメント間の内部 売上高又は振替高	174	—	179	—	354	1,043	1,397	△1,397	—
計	26,305	15,573	13,702	1,185	56,766	9,921	66,687	△1,397	65,289
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	1,051	△5,235	153	351	△3,678	234	△3,444	—	△3,444
セグメント資産	35,382	15,942	12,479	10,189	73,993	4,988	78,982	3,962	82,944
その他の項目									
減価償却費	967	1,815	199	338	3,320	179	3,500	—	3,500
持分法適用会社への 投資額	—	—	1,088	—	1,088	—	1,088	—	1,088
有形固定資産及び 無形固定資産の 増加額	1,223	1,033	378	25	2,660	212	2,872	—	2,872

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業機械事業、粉末冶金事業及び石油事業を含んでおります。

2 調整額は以下のとおりであります。

セグメント資産の調整額3,962百万円には、各報告セグメントに配分していない全社資産4,196百万円が含まれております。全社資産の金額は、当社での余資運用資金(現金預金)、長期投資資金(投資有価証券)等であり
ます。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	中国	その他	合計
59,327	12,891	4,151	76,370

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	中国	その他	合計
40,432	9,101	2,915	52,450

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	中国	その他	合計
57,119	4,018	4,151	65,289

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

国内に所在している有形固定資産の額が連結貸借対照表の有形固定資産の額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他	全社・消去	合計
	鋼索鋼線 関連	スチール コード 関連	開発製品 関連	不動産 関連	計			
減損損失	—	2,106	—	—	2,106	—	—	2,106

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他	全社・消去	合計
	鋼索鋼線 関連	スチール コード 関連	開発製品 関連	不動産 関連	計			
減損損失	—	15,246	—	—	15,246	—	—	15,246

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注)	全社・消去	合計
	鋼索鋼線 関連	スチール コード 関連	開発製品 関連	不動産 関連	計			
当期償却額	—	36	—	—	36	△1	—	35
当期末残高	—	97	—	—	97	△1	—	96

(注) 1 「その他」の金額は、産業機械事業、粉末冶金事業及び石油事業に係るものであります。

2 平成22年4月1日前行われた企業結合等により発生した負ののれんがあり、のれんと相殺しております。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注)	全社・消去	合計
	鋼索鋼線 関連	スチール コード 関連	開発製品 関連	不動産 関連	計			
当期償却額	—	39	—	—	39	△1	—	38
当期末残高	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 「その他」の金額は、産業機械事業、粉末冶金事業及び石油事業に係るものであります。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

種類	会社等の名称 または氏名	所在地	資本金 または 出資金	事業の内容 または職業	議決権等の 所有 (被所有) 割合	関連当事者と の関係	取引の 内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	KISWIRE NEPTUNE SDN. BHD	マレーシア ジョホール州	45百万 米ドル	鋼索の製造 販売	所有 直接 30.0%	株式の取得	株式の 取得 (注1)	1,112	関係会社 株式	1,112

(注) KISWIRE NEPTUNE SDN. BHDの設立に伴う株式の引受によるものであります。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

種類	会社等の名称 または氏名	所在地	資本金 または 出資金	事業の内容 または職業	議決権等の 所有 (被所有) 割合	関連当事者と の関係	取引の 内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	江蘇法爾 勝纜索 有限公司	中国江蘇省 江陰市	8百万 米ドル	橋梁ケーブル 等の製造販売	所有 直接 40.0%	債務保証	債務保証 (注)1	1,353	—	1,353

(注) 銀行借入れにつき、債務保証を行ったものであります。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	256.64円	67.06円
1株当たり当期純損失金額(△)	△23.24円	△198.52円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	－円	－円

(注) 1 前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であるため、当連結会計年度については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり当期純損失金額		
当期純損失(△)(百万円)	△3,374	△28,827
普通株主に帰属しない金額(百万円)	－	－
普通株式に係る当期純損失(△)(百万円)	△3,374	△28,827
普通株式の期中平均株式数(株)	145,210,795	145,214,521

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	40,173	11,796
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	2,905	2,059
(うち少数株主持分)(百万円)	(2,905)	(2,059)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	37,268	9,737
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	145,217,925	145,205,141

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	18,979	23,861	2.34	—
1年以内に返済予定の長期借入金	847	5,200	0.97	—
1年以内に返済予定のリース債務	460	583	—	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	11,702	7,142	0.72	平成26年～平成28年
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	1,617	1,590	—	平成26年～平成32年
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	33,607	38,378	—	—

- (注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
 2 金利スワップ取引を行った借入金については、金利スワップ後の固定金利を適用して記載しております。
 3 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
 4 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	5,965	835	341	—
リース債務	960	446	176	4

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高	14,870百万円	30,860百万円	46,686百万円	65,289百万円
税金等調整前四半期(当期) 純損失金額(△)	△1,720百万円	△3,666百万円	△3,926百万円	△28,599百万円
四半期(当期)純損失金額 (△)	△1,429百万円	△2,769百万円	△3,097百万円	△28,827百万円
1株当たり四半期(当期)純 損失金額(△)	△9.84円	△19.07円	△21.33円	△198.52円

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純 損失金額(△)	(円) △9.84円	△9.23円	△2.26円	△177.19円

2 【財務諸表等】
 (1) 【財務諸表】
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	450	2,688
受取手形	※5, ※6 951	※5, ※6 798
売掛金	※5 11,545	※5 9,758
商品及び製品	3,262	3,051
仕掛品	4,686	1,691
原材料及び貯蔵品	2,294	1,991
前払費用	115	81
繰延税金資産	874	849
短期貸付金	※5 2,312	※5 6,385
未収入金	※5 825	※5 935
その他	※5 494	※5 623
貸倒引当金	△1	△160
流動資産合計	27,813	28,695
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	※2 9,752	※2 7,824
構築物（純額）	※2 361	※2 234
機械及び装置（純額）	※2 6,104	※2 2,823
車両運搬具（純額）	19	4
工具、器具及び備品（純額）	259	188
土地	※2, ※3 20,908	※2, ※3 19,604
リース資産（純額）	1,170	1,084
建設仮勘定	69	54
有形固定資産合計	※1 38,644	※1 31,819
無形固定資産		
特許権	14	11
ソフトウェア	232	121
その他	31	30
無形固定資産合計	279	162
投資その他の資産		
投資有価証券	4,840	6,376
関係会社株式	10,611	2,730
関係会社出資金	2,273	1,898
従業員に対する長期貸付金	332	174
関係会社長期貸付金	74	1,102
長期前払費用	118	57
繰延税金資産	2,507	1,286
その他	1,000	1,918
貸倒引当金	△139	△1,079
投資その他の資産合計	21,618	14,465
固定資産合計	60,542	46,446
資産合計	88,356	75,141

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	※5, ※6 132	※5, ※6 145
買掛金	※5 7,667	※5 9,947
短期借入金	※2, ※5, ※7 15,050	※2, ※5 25,831
リース債務	460	572
未払金	41	66
未払費用	1,655	2,286
未払法人税等	51	55
未払消費税等	153	145
前受金	858	992
預り金	372	388
前受収益	12	6
賞与引当金	628	530
その他	21	23
流動負債合計	27,107	40,993
固定負債		
長期借入金	10,925	※2 5,725
リース債務	1,610	1,553
再評価に係る繰延税金負債	5,765	5,303
退職給付引当金	4,159	3,688
関係会社事業損失引当金	—	7,804
資産除去債務	504	512
長期預り金	2,013	1,984
長期前受収益	13	10
その他	※2 140	※2 130
固定負債合計	25,132	26,713
負債合計	52,240	67,707
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,074	15,074
資本剰余金		
資本準備金	5,539	5,539
その他資本剰余金	3,035	3,035
資本剰余金合計	8,575	8,574
利益剰余金		
その他利益剰余金		
別途積立金	4,500	—
繰越利益剰余金	1,098	△22,783
利益剰余金合計	5,598	△22,783
自己株式	△3,271	△3,272
株主資本合計	25,975	△2,407
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	458	1,003
繰延ヘッジ損益	1	—
土地再評価差額金	※3 9,680	※3 8,839
評価・換算差額等合計	10,140	9,842
純資産合計	36,116	7,434
負債純資産合計	88,356	75,141

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
売上高	※4 48,463	※4 39,647
売上原価		
製品期首たな卸高	2,727	3,262
当期製品製造原価	39,932	34,328
当期製品仕入高	※4 3,061	※4 2,925
原材料売上原価	155	134
不動産賃貸費用	634	801
合計	46,512	41,452
製品他勘定振替高	※3 1,183	※3 3,208
製品期末たな卸高	3,262	3,051
差引	※1 42,066	※1 35,192
売上総利益	6,397	4,455
販売費及び一般管理費		
販売手数料	372	43
運搬費	1,310	1,118
荷造費	348	389
広告宣伝費	56	71
貸倒引当金繰入額	9	163
役員報酬	310	258
給料及び賃金	903	873
賞与及び手当	830	755
賞与引当金繰入額	199	201
法定福利費	280	283
福利厚生費	202	184
退職給付引当金繰入額	300	275
租税公課	99	94
旅費及び交通費	338	315
事務用消耗品費	25	23
交際費	102	84
研究費	369	434
賃借料	376	356
通信費	45	41
減価償却費	172	175
雑費	496	478
販売費及び一般管理費合計	※2 7,152	※2 6,622
営業損失(△)	△754	△2,167

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
営業外収益		
受取利息	※4 64	※4 96
受取配当金	※4 156	※4 301
受取賃貸料	※4 170	※4 166
受取ロイヤリティー	12	10
為替差益	—	158
補助金収入	67	31
その他	127	94
営業外収益合計	598	859
営業外費用		
支払利息	219	241
賃貸費用	81	84
為替差損	18	—
その他	107	86
営業外費用合計	427	412
経常損失 (△)	△582	△1,720
特別利益		
投資有価証券売却益	4	530
特別利益合計	4	530
特別損失		
投資有価証券売却損	29	0
投資有価証券評価損	6	0
災害による損失	※5 75	—
補償修理費用	721	—
事業構造改革費用	※6 3,487	※6 10,179
関係会社事業損失引当金繰入額	—	7,804
関係会社株式評価損	—	7,880
関係会社出資金評価損	—	399
その他	2	730
特別損失合計	4,323	26,995
税引前当期純損失 (△)	△4,901	△28,185
法人税、住民税及び事業税	73	48
法人税等調整額	△1,260	625
法人税等合計	△1,187	674
当期純損失 (△)	△3,713	△28,860

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)		当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
I 材料費		23,897	63.5	19,643	62.7
II 労務費		6,813	18.1	5,832	18.6
III 経費		6,905	18.4	5,856	18.7
(うち減価償却費)		(1,773)		(1,269)	
(うち外注加工費)		(1,054)		(813)	
当期総製造費用		37,617	100.0	31,332	100.0
期首仕掛品たな卸高		7,001		4,686	
合計		44,619		36,019	
期末仕掛品たな卸高		4,686		1,691	
当期製品製造原価		39,932		34,328	

(注) 当社は工程別総合原価計算を実施しております。

③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	15,074	15,074
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	15,074	15,074
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	5,539	5,539
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	5,539	5,539
その他資本剰余金		
当期首残高	3,034	3,035
当期変動額		
自己株式の処分	1	△0
当期変動額合計	1	△0
当期末残高	3,035	3,035
資本剰余金合計		
当期首残高	8,574	8,575
当期変動額		
自己株式の処分	1	△0
当期変動額合計	1	△0
当期末残高	8,575	8,574
利益剰余金		
その他利益剰余金		
別途積立金		
当期首残高	4,500	4,500
当期変動額		
別途積立金の取崩	—	△4,500
当期変動額合計	—	△4,500
当期末残高	4,500	—
繰越利益剰余金		
当期首残高	5,174	1,098
当期変動額		
剰余金の配当	△362	△363
別途積立金の取崩	—	4,500
当期純損失(△)	△3,713	△28,860
土地再評価差額金の取崩	—	841
当期変動額合計	△4,076	△23,881
当期末残高	1,098	△22,783

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
利益剰余金合計		
当期首残高	9,674	5,598
当期変動額		
剰余金の配当	△362	△363
当期純損失(△)	△3,713	△28,860
土地再評価差額金の取崩	—	841
当期変動額合計	△4,076	△28,381
当期末残高	5,598	△22,783
自己株式		
当期首残高	△3,284	△3,271
当期変動額		
自己株式の取得	△5	△2
自己株式の処分	17	1
当期変動額合計	12	△0
当期末残高	△3,271	△3,272
株主資本合計		
当期首残高	30,038	25,975
当期変動額		
剰余金の配当	△362	△363
当期純損失(△)	△3,713	△28,860
土地再評価差額金の取崩	—	841
自己株式の取得	△5	△2
自己株式の処分	19	1
当期変動額合計	△4,062	△28,383
当期末残高	25,975	△2,407
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	194	458
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	263	544
当期変動額合計	263	544
当期末残高	458	1,003
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	0	1
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	0	△1
当期変動額合計	0	△1
当期末残高	1	—

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
土地再評価差額金		
当期首残高	8,834	9,680
当期変動額		
土地再評価差額金の取崩	—	△841
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	845	—
当期変動額合計	845	△841
当期末残高	9,680	8,839
評価・換算差額等合計		
当期首残高	9,030	10,140
当期変動額		
土地再評価差額金の取崩	—	△841
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,110	543
当期変動額合計	1,110	△298
当期末残高	10,140	9,842
純資産合計		
当期首残高	39,068	36,116
当期変動額		
剰余金の配当	△362	△363
当期純損失（△）	△3,713	△28,860
土地再評価差額金の取崩	—	—
自己株式の取得	△5	△2
自己株式の処分	19	1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,110	543
当期変動額合計	△2,952	△28,681
当期末残高	36,116	7,434

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法に基づく原価法によっております。

(2) その他有価証券

① 時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法によっております。(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

② 時価のないもの

移動平均法に基づく原価法によっております。

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)により評価しております。

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

① リース資産以外の有形固定資産

主として定率法によっております。

賃貸資産の一部及び平成10年4月1日以降取得の建物(建物付属設備を除く)は定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～50年

機械装置 2～15年

② リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

なお、リース取引会計基準の改正適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(2) 無形固定資産

定額法によっております。

ただしソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、当期に負担すべき支給見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を費用処理しております。

会計基準変更時差異については、15年による按分額を計上しております。

過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務年数以内の一定の年数(11年)による按分額を費用処理しております。

数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務年数以内の一定の年数(11年)による按分額をそれぞれ発生の翌事業年度より費用処理することとしております。

(4) 関係会社事業損失引当金

関係会社の事業の損失に備えるため、当該会社の財政状態を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

5 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。但し、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理を、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

① ヘッジ手段

為替予約、金利スワップ

② ヘッジ対象

外貨建債権債務及び外貨建予定取引、借入金

(3) ヘッジ方針

外貨建金銭債務等の為替変動リスク、借入金の金利変動リスクを管理するためデリバティブ取引を導入しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ手段の変動額の累計額とヘッジ対象の変動額の累計額を比較して有効性を判定しております。

ただし、特例処理によっている金利スワップ取引については、有効性の評価を省略しております。

6 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜き方式によっております。

(会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる当事業年度の営業損失、経常損失及び税引前当期純損失に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

連結納税

当社及び一部の連結子会社は、平成26年3月期より連結納税制度を受けることにつき、承認申請を行いました。また、当事業年度より「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い(その1)」(実務対応報告第5号)及び「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い(その2)」(実務対応報告第7号)に基づき、連結納税制度の適用を前提とした会計処理を行っております。

財務制限条項

当社の借入金のうち、シンジケート・ローン契約による借入金残高1,625百万円については、以下のとおり財務制限条項が付されております。

①事業年度末日における連結貸借対照表の純資産の部の合計金額を322億円又は直近の事業年度末日における純資産の部の合計金額の75%のいずれか高い方に維持すること。

②各事業年度末日における連結の損益計算書における営業利益を2期連続して損失としないこと。

なお、当事業年度末において、上記①に抵触しておりますが、当該事実について取引金融機関へ報告しており、取引条件の見直しは求められておりません。

(貸借対照表関係)

※1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	52,721百万円	54,290百万円

※2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
(工場財団)		
土浦工場 (生産設備、土地、建物、構築物、機械装置の一部)	5,369百万円	5,141百万円
北上工場 (生産設備、土地、建物、構築物、機械装置の一部)	4,796百万円	1,030百万円
計	10,166百万円	6,171百万円
(その他)		
その他(土地、建物)	111百万円	19,965百万円

担保付債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
短期借入金	20百万円	19,014百万円
長期借入金	一百万円	10,925百万円
その他(固定負債「その他」)	57百万円	47百万円

※3 土地の再評価

土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。

再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額に、合理的な調整を行って算出

再評価を行った年月日 平成13年3月31日及び平成14年3月31日

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と 再評価後の帳簿価格との差額	△5,297百万円	△3,463百万円

4 偶発債務

(1) 保証債務

下記の会社の金融機関等からの借入等に対して、債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
子会社 東京製綱マレーシア株式有限責任会社の借入金に対する債務保証	1,643百万円 (20百万米ドル)	1,780百万円 (18百万米ドル)
子会社 東京製綱ベトナム有限責任会社の借入金に対する債務保証	822百万円 (10百万米ドル)	939百万円 (9百万米ドル)
関連会社 江蘇東綱金属製品有限公司の借入金に対する債務保証	652百万円 (50百万元)	－百万円
関連会社 江蘇法爾勝纜索有限公司の借入金に対する債務保証	521百万円 (40百万元)	1,353百万円 (90百万元)
子会社 東京製綱(常州)機械有限公司の借入金に対する債務保証	413百万円 (31百万元)	274百万円 (18百万元)
子会社 東京製綱マレーシア株式有限責任会社の不動産賃貸借契約に対する債務保証	15百万円 (0百万リンギ)	－百万円
子会社 ㈱東綱ワイヤロープ西日本の不動産賃貸借契約に対する債務保証	15百万円	11百万円

(2) 手形債権流動化に伴う買戻し義務

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
手形債権流動化に伴う買戻し義務	1,594百万円	913百万円

※5 関係会社に対する資産及び負債

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
受取手形	86百万円	98百万円
売掛金	2,409百万円	2,465百万円
短期貸付金	2,312百万円	6,385百万円
未収入金	594百万円	679百万円
流動資産その他	446百万円	436百万円
支払手形	3百万円	3百万円
買掛金	720百万円	528百万円
短期借入金	1,200百万円	1,617百万円

※6 期末日満期手形の処理

期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
受取手形	11百万円	29百万円
支払手形	67百万円	43百万円

※7 貸出コミットメントライン及び当座貸越契約

当社において、取引銀行2行と締結しておりました貸出コミットメントライン及び当座貸越契約につきましては、契約を更新していません。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
貸出コミットメント及び当座貸越極度額の総額	4,300百万円	—百万円
借入実行残高	1,218百万円	—百万円
差引	3,081百万円	—百万円

(損益計算書関係)

※1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、前事業年度の評価損の戻入益と当事業年度の評価損を相殺した結果、次のたな卸資産評価損(△は戻入益)が売上原価に含まれております。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
売上原価	29百万円	72百万円

※2 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
一般管理費	975百万円	978百万円

※3 製品他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
払出		
営業外費用へ		
営業外費用その他	6百万円	2百万円
特別損失へ		
災害による損失	△5百万円	－百万円
補償修理費用	401百万円	－百万円
事業構造改革費用	523百万円	2,915百万円
半製品有償支給	208百万円	204百万円
その他	50百万円	85百万円
計	1,183百万円	3,208百万円

※4 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
売上高	7,764百万円	7,911百万円
仕入高		
商品及び製品	2,183百万円	1,327百万円
材料他	1,509百万円	1,363百万円
営業外収益		
受取利息	48百万円	76百万円
受取配当金	34百万円	163百万円
受取賃貸料	153百万円	157百万円

※5 災害による損失

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
固定資産、たな卸資産の滅失等	△24百万円	－百万円
設備の修繕、原状回復費用	45百万円	－百万円
操業停止期間中の固定費、現地支援費等	54百万円	－百万円
計	75百万円	－百万円

※6 事業構造改革費用

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
減損損失 (注)	2,106百万円	5,754百万円
固定資産除却損	755百万円	－百万円
たな卸資産処分損及び評価損	625百万円	3,074百万円
早期退職者費用	－百万円	857百万円
その他	－百万円	493百万円
計	3,487百万円	10,179百万円

(注)減損損失

前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

用途	場所	種類
事業用資産 (スチールコード関連事業)	北上工場 岩手県北上市他	建物及び構築物 機械装置

当社グループは、管理会計上で収支を把握している事業グループを単位としてグルーピングを行い、その他に賃貸用資産及び遊休地については個別の資産グループとしております。

太陽光関連事業の環境悪化を受けて、当事業年度において、スチールコード関連事業の北上工場の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額(2,106百万円)を減損損失として特別損失に計上しております。

その内訳は、建物631百万円、構築物53百万円、機械装置1,421百万円であります。

なお、回収可能価額は将来キャッシュ・フローに基づく使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを3.6%で割り引いて算定しております。

当事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

用途	場所	種類
事業用資産 (スチールコード関連事業)	北上工場 岩手県北上市他	建物及び構築物、 機械装置及び運搬具、 土地、その他
	北上機械製作所 岩手県北上市	建物及び構築物 機械装置及び運搬具、 その他

当社グループは、管理会計上で収支を把握している事業グループを単位としてグルーピングを行い、その他に賃貸用資産及び遊休地については個別の資産グループとしております。

太陽光関連事業の環境悪化を受けて、当事業年度において、スチールコード関連事業の北上工場、北上機械製作所の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額(5,754百万円)を減損損失として特別損失に計上しております。

その内訳は、建物1,408百万円、構築物117百万円、機械装置2,841百万円、土地1,236百万円、その他151百万円であります。

なお、回収可能価額は将来キャッシュ・フローに基づく使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを5.9%で割引いて算定しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	17,536,571	23,076	95,152	17,464,495

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 23,076株

減少数の主な内訳は、次の通りであります。

ストック・オプションの行使による減少 85,000株

単元未満株式の売渡しによる減少 10,152株

当事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	17,464,495	23,427	10,643	17,477,279

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 23,427株

減少数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の売渡しによる減少 10,643株

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

1) 有形固定資産

主として、生産設備(機械及び装置)であります。

② リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2 リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前事業年度(平成24年3月31日)

	車両運搬具	工具器具備品	合計
取得価額相当額	7百万円	66百万円	74百万円
減価償却累計額相当額	6百万円	56百万円	62百万円
期末残高相当額	1百万円	10百万円	11百万円

なお、取得価額相当額は未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

当事業年度(平成25年3月31日)

	車両運搬具	工具器具備品	合計
取得価額相当額	－百万円	－百万円	－百万円
減価償却累計額相当額	－百万円	－百万円	－百万円
期末残高相当額	－百万円	－百万円	－百万円

② 未経過リース料期末残高相当額

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
1年内	11百万円	－百万円
1年超	－百万円	－百万円
合計	11百万円	－百万円

なお、未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

③ 支払リース料及び減価償却費相当額

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
支払リース料	20百万円	11百万円
減価償却費相当額	20百万円	11百万円

④ 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(有価証券関係)

前事業年度(平成24年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式9,461百万円、関連会社株式1,150百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成25年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式1,580百万円、関連会社株式1,150百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
(繰延税金資産)		
①流動資産		
賞与引当金	237百万円	200百万円
事業構造改革費用	420百万円	529百万円
その他	216百万円	118百万円
計	874百万円	849百万円
②固定資産		
退職給付引当金	1,474百万円	876百万円
関係会社株式評価損	567百万円	3,315百万円
投資有価証券評価損	324百万円	326百万円
繰越欠損金	529百万円	1,633百万円
事業構造改革費用	863百万円	3,298百万円
関係会社事業損失引当金繰入額	－百万円	2,765百万円
その他	371百万円	588百万円
繰延税金資産(固定)との相殺	△99百万円	△258百万円
小計	4,029百万円	12,546百万円
評価性引当額	△1,521百万円	△11,259百万円
計	2,507百万円	1,286百万円
繰延税金資産合計	3,382百万円	2,136百万円
(繰延税金負債)		
固定負債		
その他有価証券評価差額金	△99百万円	△258百万円
繰延税金資産(固定)との相殺	99百万円	258百万円
繰延税金負債合計	－百万円	－百万円
差引 繰延税金資産純額	3,382百万円	2,136百万円
再評価に係る繰延税金負債	△5,765百万円	△5,303百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳
税引前当期純損失のため、記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

当該事項は、重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	248.70円	51.20円
1株当たり当期純損失金額(△)	△25.58円	△198.74円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	－円	－円

(注) 1 前事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であるため、当事業年度については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

2 1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり当期純損失金額		
当期純損失(△)(百万円)	△3,713	△28,860
普通株主に帰属しない金額(百万円)	－	－
普通株式に係る当期純損失(△)(百万円)	△3,713	△28,860
普通株式の期中平均株式数(株)	145,210,795	145,214,521

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	36,116	7,434
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	－	－
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	36,116	7,434
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	145,217,925	145,205,141

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券		
その他有価証券		
横浜ゴム(株)	1,501,746	1,624
(株)ハイレックスコーポレーション	514,272	953
(株)常陽銀行	963,134	507
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	905,810	505
東洋ゴム工業(株)	881,675	370
(株)日立製作所	534,000	289
新日鐵住金(株)	1,232,484	289
三菱商事(株)	133,639	232
住友ゴム工業(株)	136,069	218
(株)三井住友フィナンシャルグループ	50,923	192
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	427,526	189
その他40銘柄	3,142,445	1,001
計	10,423,723	6,376

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	22,845	87	1,455 (1,415)	21,477	13,653	598	7,824
構築物	1,890	40	129 (117)	1,801	1,566	49	234
機械及び装置	41,956	488	2,976 (2,841)	39,468	36,644	917	2,823
車両運搬具	210	0	11 (11)	199	194	3	4
工具、器具及び備品	2,123	106	108 (73)	2,122	1,933	101	188
土地	20,908	—	1,303 (1,303)	19,604	—	—	19,604
リース資産	1,362	19	0 (0)	1,382	297	105	1,084
建設仮勘定	69	828	843 (14)	54	—	—	54
有形固定資産計	91,366	1,571	6,828 (5,778)	86,109	54,290	1,774	31,819
無形固定資産							
特許権	22	—	—	22	11	3	11
ソフトウェア	1,068	6	26 (26)	1,048	927	91	121
その他	54	—	—	54	24	1	30
無形固定資産計	1,145	6	26 (26)	1,125	963	96	162
長期前払費用	561	69	25 (25)	606	548	104	57

(注) 1 当期増加額の主なものは、次のとおりであります。

機械装置	本社	開発製品製造設備	199百万円
	土浦工場	鋼索鋼線製造設備	145百万円
建物及び構築物	土浦工場	鋼索鋼線製造設備	65百万円

2 当期減少額のうち()内は内書きで減損損失の計上額であります。

3 当期償却額の費用算入内訳は次のとおりであります。

不動産賃貸費用		377百万円
販売費及び 一般管理費	(減価償却費)	174百万円
〃	(その他)	44百万円
製造費用	(減価償却費)	1,269百万円
〃	(その他)	95百万円
営業外費用	(貸貸固定資産関係)	14百万円
〃	(その他)	1百万円
計		1,976百万円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	140	1,109	—	10	1,239
賞与引当金	628	530	628	—	530
関係会社事業損失引当金	—	7,804	—	—	7,804

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、主に洗替処理に基づくものであります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

①流動資産

a 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	2
預金の種類	
当座預金	2,455
普通預金	228
別段預金	1
計	2,685
合計	2,688

b 受取手形

相手先	金額(百万円)
(株)守谷商会	63
マツモト網販(株)	46
(株)明商	42
浪速商工(株)	36
東京戸張(株)	35
その他	574
合計	798

受取手形の期日別内訳

期日	平成25年4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
金額(百万円)	8	102	298	323	64	1	798

c 売掛金

相手先	金額(百万円)
(株)東網ワイヤロープ西日本	1,038
東洋ゴム(株)	1,021
(株)東網ワイヤロープ東日本	747
横浜ゴム(株)	541
住友ゴム工業(株)	506
その他	5,903
合計	9,758

売掛金の回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	回収率(%)	当期末残高 (百万円)	滞留状況 (日)
11,545	41,384	43,171	81.6	9,758	93.9

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

$$\text{回収率} = \frac{\text{当期回収高}}{\text{当期首残高} + \text{当期発生高}} \times 100\%$$

$$\text{滞留状況} = \frac{(\text{当期首残高} + \text{当期末残高}) / 2}{\text{当期発生高} / 365}$$

d たな卸資産

	商品及び製品 (百万円)	仕掛品 (百万円)	原材料及び貯蔵品 (百万円)	合計 (百万円)
土浦工場	1,547	850	913	3,311
堺工場	796	330	486	1,613
北上工場	431	341	551	1,324
北上機械製作所	—	166	1	167
本社	276	1	39	317
合計	3,051	1,691	1,991	6,734

(注) 本社のたな卸資産は本社所属の倉庫に保管中のものであります。

e 短期貸付金

相手先	金額(百万円)
東京製綱(常州)有限公司	2,831
東京製綱マレーシア株式有限責任会社	1,363
東京製綱ベトナム有限責任会社	978
トーコーテクノ(株)	410
赤穂ロープ(株)	370
その他	432
合計	6,385

②固定資産

関係会社株式

関係会社名	金額(百万円)
KISWIRE NEPTUNE SDN. BHD	1,112
東綱橋梁(株)	598
(株)新洋	240
東京製綱繊維ロープ(株)	205
日本特殊合金(株)	101
その他	474
合計	2,730

③流動負債

a 支払手形

相手先	金額(百万円)
日鐵商事(株)	21
富士善工業(株)	16
日本通運(株)	14
ダイドー(株)	11
(株)鬼柳	10
その他	71
合計	145

支払手形の期日別内訳

期日	平成25年4月	5月	6月	7月以降	合計
金額(百万円)	65	18	21	40	145

b 買掛金

相手先	金額(百万円)
日鐵商事(株)	1,991
(株)メタルワン	1,467
三井物産スチール(株)	1,101
赤穂ローブ(株)	237
(株)小林工業所	208
その他	4,941
合計	9,947

c 短期借入金

借入先	金額(百万円)
(株)みずほコーポレート銀行	7,250
(株)三菱東京UFJ銀行	4,989
(株)常陽銀行	3,990
(株)三井住友銀行	3,459
三井住友信託銀行(株)	2,305
その他(関係会社8社他)	3,837
合計	25,831

④ 固定負債

a 長期借入金

借入先	金額(百万円)
三井住友信託銀行(株)	2,500
シンジケートローン (注)	1,125
三菱UFJ信託銀行(株)	1,500
(株)常陽銀行	600
合計	5,725

(注) シンジケートローンは、(株)三井住友銀行をアレンジャー並びにエージェントとする8金融機関によるものであります。

b 再評価に係る繰延税金負債

当科目の内容につきましては、「第5 経理の状況 2 財務諸表等 (1)財務諸表 注記事項」の(税効果会計関係)を参照下さい。

c 関係会社事業損失引当金

借入先	金額(百万円)
東京製綱(常州)有限公司	3,928
東京製綱マレーシア株式有限責任会社	3,471
東京製綱(常州)機械有限公司	405
合計	7,804

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、やむを得ない理由により電子公告をすることが出来ないときは、日本経済新聞に掲載して行う。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 http://www.tokyoropeco.jp/
株主に対する特典	なし

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を有していません。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第213期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) 平成24年6月28日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書

事業年度 第213期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) 平成24年6月28日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第214期第1四半期(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日) 平成24年8月13日関東財務局長に提出。

第214期第2四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日) 平成24年11月14日関東財務局長に提出。

第214期第3四半期(自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日) 平成25年2月13日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

平成24年6月29日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号(財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象)及び19号(連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象)の規定に基づく臨時報告書

平成25年5月23日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年 6 月27日

東京製綱株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	廿	楽	眞	明	Ⓔ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	村	山	孝		Ⓔ

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東京製綱株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東京製綱株式会社及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、東京製綱株式会社
の平成25年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認めら
れる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができな
い可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に
対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に
係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当
監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画
を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠
を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信
頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部
統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書
の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、東京製綱株式会社が平成25年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示
した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価
の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示し
ているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提
出会社)が別途保管しております。

2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成25年 6月27日

東京製綱株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	廿	楽	眞	明	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	村	山	孝		Ⓜ

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東京製綱株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第214期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東京製綱株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月27日
【会社名】	東京製綱株式会社
【英訳名】	TOKYO ROPE MFG. CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 蔵 重 新 次
【最高財務責任者の役職氏名】	該当なし
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋3丁目6番2号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

当社代表取締役社長 蔵重新次は、当社、連結子会社及び持分法適用会社（以下、「当社グループ」という。）の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の改訂について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成25年3月31日を基準日として行なわれており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しました。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しています。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社並びに連結子会社及び持分法適用会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社及び連結子会社14社、持分法適用会社2社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。

なお、連結子会社1社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の当連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、連結売上高の概ね3分の2に達している3事業拠点を「重要な事業拠点」としました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象としました。

さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社グループの財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

該当事項はありません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月27日
【会社名】	東京製綱株式会社
【英訳名】	TOKYO ROPE MFG. CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 蔵 重 新 次
【最高財務責任者の役職氏名】	該当なし
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋3丁目6番2号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 蔵重 新次は、当社の第214期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

